

(別表4)

看護学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤									
生物学	30						1	30	
教育学	15						1	15	
情報科学	30						1	30	
統計学	30						1	30	
化学	15						1	15	
人間と生活, 社会の理解									
人間関係論	30						1	30	
カウンセリング	30						1	30	
社会学	15						1	15	
家族論	30						1	30	
倫理学	15						1	15	
医学英語			30				1	30	
英会話	30						1	30	
芸術	30						1	30	
体育		30					1	30	
小計	300	30	30	0	0	0	14	360	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能									
解剖学	30						1	30	
生理学	30						1	30	
生化学		30					1	30	
栄養学Ⅰ	15						1	15	
栄養学Ⅱ		15					1	15	
疾病の成り立ちと回復の促進									
薬理学		30					1	30	
微生物学		30					1	30	
病理学		30					2	30	
病態生理学Ⅰ (循環器)		15					1	15	
病態生理学Ⅱ (呼吸器・脳神経)		30					1	30	
病態生理学Ⅲ (消化器・泌尿器・血液・造血器)		30					1	30	
病態生理学Ⅳ (代謝・内分泌・運動器・免疫・アレルギー)		30					1	30	
病態生理学Ⅴ (婦人科・感染症・眼科・歯科・皮膚科・耳鼻科)		30					1	30	
病態生理学Ⅵ小児		15					1	15	
病態生理学Ⅶ精神		15					1	15	
健康支援と社会保障制度									
医療概論	15						1	15	
公衆衛生学			30				1	30	
社会福祉論			30				1	30	
関係法規			30				2	30	
リハビリテーション論			30				1	30	
小計	90	300	120	0	0	0	22	510	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の概念	30						1	30	
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術Ⅳ		30					1	30	
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
基礎看護技術演習Ⅱ		45					1	45	◎
臨床看護推論				15			1	15	
臨床看護総論		30					1	30	
看護研究			30				1	30	◎
看護研究演習						15	1	15	◎
地域・在宅看護論									
地域看護論			15				1	15	
地域看護方法論				15			1	15	
在宅看護概論			15				1	15	
在宅看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
在宅看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
在宅看護方法論Ⅱ				15			1	15	
成人看護学									
成人看護学概論		15					1	15	
成人看護方法論Ⅰ（急性期）			30				1	30	
成人看護方法論Ⅱ回復期（セルフケアの再獲得）				30			1	30	
成人看護方法論Ⅲ回復期（セルフマネジメント）			30				1	30	
成人看護方法論Ⅳ（慢性期）				15			1	15	
成人看護方法論Ⅴ（ターミナルケア）				15			1	15	
老年看護学									
老年看護学概論		15					1	15	
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
老年看護方法論Ⅱ				15			1	15	
小児看護学									
小児看護学概論		15					1	15	
小児看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
小児看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
小児看護方法論Ⅱ				15			1	15	
母性看護学									
母性看護学概論		30					1	30	
母性看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
精神看護学									
精神看護学概論		30					1	30	
精神看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
精神看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
精神看護方法論Ⅱ				15			1	15	
看護の統合と実践									
医療安全管理				30			1	30	
チーム医療論			30				1	30	
国際看護			15				1	15	
災害看護				30			1	30	
看護管理				15			1	15	
小計	135	240	345	390	0	15	45	1125	

臨地実習

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
基礎看護学実習Ⅰ		40					1	40	
基礎看護学実習Ⅱ				80			2	80	
地域・在宅看護論実習						80	2	80	
成人看護学実習Ⅰ					40		1	40	
成人看護学実習Ⅱ					80		2	80	
成人・老年看護学実習					120		3	120	
老年看護学									
老年看護学実習					120		3	120	
小児看護学									
小児看護学実習					80		2	80	
母性看護学									
母性看護学実習					80		2	80	
精神看護学									
精神看護学実習						80	2	80	
看護の統合と実践									
看護の統合と実践実習						120	3	120	
小計	0	40	0	80	520	280	23	920	

総計	525	610	495	470	520	295	104	2915	
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	--

	1年	2年	3年	総合計
時間数	1135	965	815	2915
単位数	44	39	21	104

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

生物学/生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「ヒトが生きている」ことから「自分の存在」を認識し、「生命（いのち）の大切さ」が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生命の誕生・進化、ヒトの誕生（序章・第1章・第8章）	講義	
第2回	細胞の基本構造と機能（第1・2章）	講義	
第3回	酸素呼吸・エネルギー（ATP）合成（第2章）	講義	
第4回	同化・異化、消化酵素（第1・2章）	講義	
第5回	エネルギー（ATP）の利用（筋収縮・能動輸送・発光）（第7章）	講義	
第6回	神経系（感覚・運動・中枢）の構造と機能、神経情報伝達（第7章）	講義	
第7回	生体の恒常性、内分泌系（ホルモン）と自律神経系（第6章）	講義	
第8回	ほ乳動物の各臓器の構造と機能（第6章）	講義	
第9回	メンデル遺伝、ヒトの遺伝（血液型・色覚異常）（第4章）	講義	
第10回	細胞分裂、生殖/発生のしくみ（第3・5章）	講義	
第11回	ハツカネズミの解剖（呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系）	実習	
第12回	DNAの構造・DNA合成（DNAの半保存的複製）（第4章）	講義	
第13回	RNA合成（転写）、タンパク質合成（翻訳）（第4章）	講義	
第14回	生物学講義のまとめ	講義	
第15回	直前試験対策（30分）/終講試験（60分）	講義/試験	

評価方法	■筆記試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	「系統看護学講座 基礎分野 生物学」(医学書院)
参考図書	(1) WEB 玉塾 「生物」・「解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ (2) 看護 roo 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

本授業では、医療従事者として必要な教育学の基礎的知識を身につける。

◇到達目標

1. 教育の理念と目的がわかる。
2. 患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護師にとっての教育学	講義	
第2回	学校・家庭・社会における教育	講義	
第3回	教育の組織化	講義	
第4回	発達と生涯学習	講義	
第5回	教育の担い手	講義	
第6回	キャリア教育	講義	
第7回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	
第8回	看護と教育のまとめ ・ 試験	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (50%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	木村元編『教育学』（系統看護学講座基礎分野）医学書院 2021年
参考図書	なし
留意事項	事前学習：必要な場合は指示する。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

本授業では、医療従事者として必要な教育学の基礎的知識を身につける。

◇到達目標

1. 教育の理念と目的がわかる。
2. 患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護師にとっての教育学	講義	
第2回	学校・家庭・社会における教育	講義	
第3回	教育の組織化	講義	
第4回	発達と生涯学習	講義	
第5回	教育の担い手	講義	
第6回	キャリア教育	講義	
第7回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	
第8回	看護と教育のまとめ ・ 試験	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (50%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	木村元編『教育学』(系統看護学講座基礎分野) 医学書院 2021年
参考図書	なし
留意事項	事前学習：必要な場合は指示する。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
情報科学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット社会における必要な知識としての情報モラルを身につける。 ・パソコンを自分の仕事に使えるようになる。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアを使用する時のマナー、個人情報と知的財産の保護、情報セキュリティについて理解する。 ・情報について、コンピューターシステムとネットワークを理解させ、基礎的情報処理の方法について理解する。

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット社会に必要とされる基本的なモラルやマナーを身につけ、安全にインターネットを活用するための知識を学ぶ。 ・Word を使ってレポートを書き、Excel にてデータを処理しグラフを作成し、PowerPoint により発表ができる技術を身につける。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	インターネット社会のモラルとマナー	講義・実習	
第2回	個人情報と知的財産の保護	講義・実習	
第3回	情報セキュリティとインターネットでの被害	講義・実習	
第4回	Word Windows の基礎 文字入力	講義・実習	
第5回	Word の文章編集	講義・実習	
第6回	Word 図の作成	講義・実習	
第7回	Word 画像の利用	講義・実習	
第8回	Excel の基本操作	講義・実習	
第9回	Excel 数式を Excel の形式で入力	講義・実習	
第10回	Excel 関数の利用	講義・実習	
第11回	Excel グラフの作成・グラフの編集	講義・実習	
第12回	PowerPoint 文字の入力 スライドの操作・オブジェクトの入力	講義・実習	
第13回	PowerPoint スライドショーを操作する・オブジェクトにアニメーション効果を適用する	講義・実習	
第14回	Word と Excel と PowerPoint の間でデータ利用	講義・実習	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	■筆記試験 (80%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (20%) □その他 (%)
------	---

教科書	30時間でマスター Office2013 : 実教出版
-----	-----------------------------

令和4年度 看護学科 シラバス

参考図書	
留意事項	

※ 講義は2階のパソコン室で行いますので、移動して下さい。
(パソコン室が閉まっている場合は、1階の受付でパソコン室の鍵を借りて下さい。)

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
統計学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

保健医学領域において役に立つ統計学の基本的概念や考え方を理解し、看護研究に役立てる。

◇到達目標

データのまとめ方とグラフの描き方、そして統計的推定と検定の考え方を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	2つの統計学 (記述統計、推測統計)	演習 (パソコン室)	
第2回	データの集め方、データの種類 (数量データ、カテゴリーデータ)	演習 (パソコン室)	
第3回	無作為抽出法、コインの裏表、サイコロの目	演習 (パソコン室)	
第4回	データのまとめ方、大きさ順に並べる、度数分布表	演習 (パソコン室)	
第5回	グラフの作り方、ヒストグラム	演習 (パソコン室)	
第6回	エクセルの計算、関数の使い方、基本統計量	演習 (パソコン室)	
第7回	クロス集計表、 χ^2 値、期待値	演習 (パソコン室)	
第8回	統計的仮説検定の考え方	演習 (パソコン室)	
第9回	χ^2 検定	演習 (パソコン室)	
第10回	正規分布と標準正規分布	演習 (パソコン室)	
第11回	標本のデータ数と分布、t分布	演習 (パソコン室)	
第12回	対応のあるt検定	演習 (パソコン室)	
第13回	相関係数について	演習 (パソコン室)	
第14回	平均値と比率の推定	演習 (パソコン室)	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (100%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) 筆記試験 (与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。)
------	---

教科書	田村浩志・小島隆矢共著：マンガでわかるナースの統計学 ：オーム社
参考図書	
留意事項	終講試験 (与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。)

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
化学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目標</p> <p>医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。 自然って？いのちって？身近な物質や現象をみつめる化学の、科学の眼差しを培う。</p> <p>授業概要</p> <p>人の正常な活動や疾病の理解をするため、身体を構成する物質とその反応を修得する。</p>
--

◇到達目標

<p>医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	化学知識の自己評価としてのショートテスト 化学の復習と講義概論	テスト 自己採点	
第2回	「紙が燃える」と「ヒトが活着ている」ことの共通点を化学してみよう。 ビデオ「モデルで考える」	講義	
第3回	無機化合物と有機化合物、原子と分子の話 ビデオ「化学結合」	講義	
第4回	「水に溶ける」とは？水に溶けないものとの違いを考える 塩と酸とアルカリ（塩基）	講義	
第5回	栄養の化学を考える	講義	
第6回	からだの中の化学を考える ビデオ「高分子化合物」	講義	
第7回	まとめ	講義	
第8回	終講試験（発表会）	発表試験	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（ 20 %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ 10 %） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 70 %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	「食べられる」科学実験：尾嶋好美 著（サイエンス・アイ新書） 系統看護学講座. 人体の構造と機能2 生化学（医学書院）
参考図書	斎藤勝治著 やさしくわかる化学のしくみ ナツメ社
留意事項	事前学習：高校の化学の教科書（文化系のものでもよい）程度は理解してきてほしい。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間関係をめぐる諸問題にアプローチする学問的基礎を学び、人間関係の多様化を多角的に捉える視点を育成する。

◇到達目標

人間関係のトラブルが生じたときに、授業で学んだことを参考にして対応できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	エリクソンの人間発達論（1）・・・第1章のメインテーマ	講義	
第2回	エリクソンの人間発達論（2）	講義	
第3回	エリクソンの人間発達論（3）	講義	
第4回	第2章 対人関係と役割	講義	
第5回	第3章 態度と対人行動	講義	
第6回	第4章 集団と個人	講義	
第7回	第5章 コミュニケーション	講義	
第8回	第6章 カウンセリングと心理療法	講義	
第9回	第7章 コーチング	講義	
第10回	第8章 アサーティブ・コミュニケーション	講義	
第11回	第9章 保健医療チームの人間関係	講義	
第12回	第10章 患者を支える人間関係	講義	
第13回	第11章 家族を含めた人間関係	講義	
第14回	第12章 地域をつくる人間関係	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	■筆記試験（100%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	系統看護学講座 別巻14 基礎分野 人間関係論
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
カウンセリング	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

カウンセリングに関する講義と実習

◇到達目標

カウンセリングに関連する知識と態度の理解。傾聴の基本の習得。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	カウンセリングって何だろう	講義	
第2回	自分関係論	講義	
第3回	カウンセリングのはじまり	講義	
第4回	カウンセリングマインド	講義	
第5回	心理療法について・精神分析	講義	
第6回	心理療法について・認知講堂療法	講義	
第7回	傾聴について・人間性心理学	講義	
第8回	傾聴の実践・逐語記録の検討	講義	
第9回	EXP スケールについて	講義	
第10回	逐語記録の検討	講義	
第11回	困った患者さんへの対応自閉症スペクトラムの理解	講義	
第12回	自閉症スペクトラムの理解	講義	
第13回	トラウマインフォームドケア	講義	
第14回	看護師のストレスリダクション	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	「心のメッセージを聴く」池見陽著 講談社現代新書
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

私たちは、一人ひとりが個別の存在であることを自覚し、社会のルールに従って、それぞれの生活を送っています。人間関係を考えながら、社会のいろいろなことを考えます。

◇到達目標

日常的な出来事に目を向け、学問としての理解を試みる・・・私たちの日常に、学ぶことの愉しみを見つけます。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会学で学ぶこと 人間関係で理解する社会	講義	
第2回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第3回	研究方法としての調査	講義	
第4回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第5回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第6回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第7回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第8回	終講試験 (60分)・まとめ (30分)	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (筆記試験 80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度 20%)
------	---

教科書	「日常の社会学」(南園節教 著)
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、演劇、映画、テレビ、読書 等の話題も・・・。
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
家族論	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

現在家族の諸現象ライフタスク（人生で直面する課題）の諸問題の分析と対処を探る
--

◇到達目標

患者やその家族への治療的アプローチ支援を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	資料から見る家族	講義	
第2回	家族看護とは	講義	
第3回	家族とは	講義	
第4回	家族の構造	講義	
第5回	子育てとアタッチメント	講義	
第6回	母性・父性論と母性愛	講義	
第7回	家族システム論	講義	
第8回	家族看護の方法	講義	
第9回	家族アセスメント	講義	
第10回	リラクゼーション	実習	講堂
第11回	傾聴とアサーションスキル	講義	
第12回	家族問題と社会資源・在宅ケア	講義	
第13回	家族支援アプローチ 1	講義	
第14回	家族支援アプローチ 2	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	系統看護学講座「家族看護学」 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストを読んでおくこと

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

医療援助職に必要なコミュニケーション能力をケア論の観点から考察する。

◇到達目標

1.医療におけるケアの特徴を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2.ケアを仕事とすることに内在する困難を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス・イントロダクション	講義	
第2回	ケアとキュア	講義	
第3回	傾聴とは何か1——傾聴することの困難	講義	
第4回	傾聴とは何か2——傾聴と聞き流し	講義	
第5回	障害をめぐるケア1——障害と向き合うこと	講義	
第6回	障害をめぐるケア2——自己決定の条件	講義	
第7回	患者と患者の家族に対するケア	講義	
第8回	定期試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(提出物 10%)
------	---

教科書	プリントを配布する。
参考図書	適宜指示する。
留意事項	私語厳禁。予習・復習を行うこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

将来、医学・看護学の英語文献を読み、研究・臨床に活かすこと、医療現場での記録物や外国の患者対応ができるよう、専門用語の習得及び医学英語の読解力を養う。

◇到達目標

看護領域に必要な医学英語の基本を学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション・Chapter1	演習	
第2回	Chapter2	小テスト 演習	
第3回	Chapter3	小テスト 演習	
第4回	Chapter4	小テスト 演習	
第5回	Chapter5	小テスト 演習	
第6回	Chapter6	小テスト 演習	
第7回	症状集	小テスト 演習	
第8回	Chapter7	小テスト 演習	
第9回	Chapter8	小テスト 演習	
第10回	Chapter9	小テスト 演習	
第11回	Chapter10	小テスト 演習	
第12回	Chapter11	小テスト 演習	
第13回	Chapter12	小テスト 演習	
第14回	表現集・人体図・全体の Review	小テスト 演習	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (80%)	<input type="checkbox"/> 実技試験 (%)	<input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト(単語テスト) (20%)	<input type="checkbox"/> レポート (%)	<input type="checkbox"/> その他 (%)

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	English for Medicine(Revised Edition) (Toshiaki Nishimura,Mayumi Nishikawa,Carey Benom 著 金星堂)
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
英会話	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

英語によるコミュニケーション能力を高める専門用語の習得

◇到達目標

様々なシーンで、英語を使って対応できるようにする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション・Unit1	演習	
第2回	Unit2	演習	
第3回	Unit3	演習	
第4回	Unit4	演習	
第5回	Unit5	演習	
第6回	Unit6	演習	
第7回	・ Review Unit1～Unit6	演習	
第8回	Unit7	演習	
第9回	Unit8	演習	
第10回	Unit9	演習	
第11回	Unit10	演習	
第12回	Unit11	演習	
第13回	Unit12	演習	
第14回	Review Unit7～12 ・ Preparation for test	演習	
第15回	終講試験	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト(会話テスト) (30 %) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
芸術	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

芸術活動が人間の心にどのような作用を与え、療養生活の支えになるかを知り、実際に演習を行う。高齢者へのアクティビティケアのうち「絵画療法」を体験する。

◇到達目標

制作過程に重点をおき、美術制作活動そのものを楽しみ、作品に感情を込め、個性的な表現を伸ばすことを目的とする。
 1 絵本を制作する
 2 近代絵画の歩みを学ぶ
 3 色彩コラージュ
 4 カラーセラピー

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	絵本制作 (1) テーマ・作り方等の説明と製本作業	オリエンテーション・製作	
第2回	絵本製作 (2) 表紙をつけて製本を仕上げる・ストーリーを考える	製作	
第3回	絵本製作 (3) ストーリーを考え、ストーリーに沿ってノートに下絵を描く	製作	
第4回	絵本製作 (4) ノートに絵本の大きさに絵と文字を描く	製作	
第5回	絵本製作 (5) 製本に絵と文字を写し、色鉛筆できれいに彩色をする	製作	
第6回	絵本製作 (6) 製本に絵と文字を写し、色鉛筆できれいに彩色をする	製作	
第7回	絵本製作 (7) 表紙・見返し絵・背表紙をきれいに描く	製作	
第8回	絵本製作 (8) 実物投影機を使い、各自が絵本の発表をすると共に他の人の作品を鑑賞する	発表・鑑賞	
第9回	絵本作り (9) 実物投影機を使い、各自が絵本の発表をすると共に他の人の作品を鑑賞する	発表・鑑賞	
第10回	近代絵画の流れ (1) 古典派からロマン派・写実主義へ	講義	
第11回	近代絵画の流れ (2) 印象派の誕生と展開	講義	
第12回	近代絵画の流れ (3) 後期印象派・19世紀の画家たち	講義	
第13回	色彩コラージュ・コラージュ作品制作	制作	
第14回	色彩コラージュ・自己への認識・他者からの質問による気づき	制作	
第15回	カラーセラピー	制作	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (30%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (作品提出・制作態度) (70%)

教科書	特になし
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
体 育	中西 信之	1	1	前期	必修

◇講義概要

健康という概念をもとにスポーツ・レクリエーション活動を通して健全な心身の育成のあり方についての基礎知識とその実践を理解する。

◇到達目標

看護学生が医療現場で健康的に活動ができる体力づくりのための基礎と、日常生活へのスポーツ・レクリエーション活動への取り組み方を体得できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	人間と健康について	講義	
第2回	あそびと体力づくりの関係について	講義・演習	
第3回	健康観とライフスタイルの点検	講義	
第4回	代謝エネルギーと1日の必要運動量	演習	
第5回	体力測定1	講義・演習	
第6回	体力測定2	演習	
第7回	レクリエーションダンス	講義・演習	
第8回	レクリエーションスポーツ1 (ペタンク)	講義・演習	
第9回	レクリエーションスポーツ2 (スカイクロス)	講義・演習	
第10回	音楽療法とレクリエーション活動1	講義・演習	
第11回	音楽療法とレクリエーション活動2	演習	
第12回	生涯スポーツとその実践1 (キャッチングザステック他)	講義・演習	
第13回	生涯スポーツとその実践2 (チャレンジザゲーム記録会)	演習	
第14回	生涯スポーツとその実践3 (ロープジャンプ)	講義・演習	
第15回	スポーツと健康についてまとめ・終講レポート	講義・試験	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (80%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (20%)

教科書	必要時に資料提示・プリントの配布
参考図書	参考資料及び教材 運動の健康科学 レクリエーション概論 障害者スポーツの理論他 スポーツレクリエーションについて (ビデオ学習)
留意事項	事前学習：各自が運動に適した服装とシューズを準備すること 日々健康に留意し、ライフスタイルに健全な生活を心がける

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・人体を構成する細胞・組織・臓器について各系統別に学ぶ。 ・人体の構造が機能的また臨床的にどのように関連しているかについて理解する。

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> (1) 人体の構造を機能・病気と関連して理解する。 (2) 人体の構造を平面的でなく、立体的に把握する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	解剖学総論	講義	
第2回	骨格系（総論・頭蓋骨）	講義	
第3回	骨格系（体幹・上肢・下肢の骨）	講義	
第4回	筋系（総論・頭部・頸部・胸部・腹部の筋）	講義	
第5回	筋系（上肢・下肢・背部の筋）	講義	
第6回	脈管系（心臓・動脈系）	講義	
第7回	脈管系（静脈系・リンパ系）	講義	
第8回	呼吸器系	講義	
第9回	消化器系	講義	
第10回	消化器系・泌尿器系	講義	
第11回	生殖器系・内分泌器系	講義	
第12回	神経系（中枢神経系）	講義	
第13回	神経系（末梢神経系）	講義	
第14回	感覚器系・発生学	講義	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	入門人体解剖学―（南江堂）
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の生理機能（植物性機能と動物性機能）について、器官・組織・細胞・分子のレベルで理解し、疾病とその治療・ケアに関する専門科目を学習するための基礎知識を形成する。

◇到達目標

人体の生理機能（植物性機能と動物性機能）を器官・組織・細胞・分子のレベルで説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生理学概論・細胞の生理学	講義	
第2回	体液	講義	
第3回	消化・吸収の生理学 1	講義	
第4回	消化・吸収の生理学 2	講義	
第5回	呼吸の生理学	講義	
第6回	血液循環の生理学（心臓）	講義	
第7回	血液循環の生理学（血管）	講義	
第8回	血液の生理学	講義	
第9回	尿の生成と排泄の生理学	講義	
第10回	神経系の機能	講義	
第11回	内分泌系の機能	講義	
第12回	代謝と体温調節	講義	
第13回	感覚機能	講義	
第14回	運動機能	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験・講義	

評価方法	■筆記試験（80%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（20%）	□レポート（ %）	□その他（%）

教科書	系統系看護学講座 解剖生理学 - 人体の構造と機能①（医学書院）
参考図書	ナーシンググラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生化学	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

生体の恒常性の維持に必要な生体物質の構造と機能ならびにそれらの代謝に関する知識を習得し生化学的生命観を確立する。

◇到達目標

- 1) 生体構成基本物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の構造の理解
- 2) 生体の設計図である遺伝子の構造と遺伝子発現の理解
- 3) 生体の恒常性維持を支えている生体物質の代謝とその調節機構の理解
- 4) 遺伝情報とその発現や生体物質代謝とその調節の異常による疾患についての理解

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生化学を学ぶための基礎知識	講義	
第2回	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	
第3回	糖質の構造と機能	講義	
第4回	糖質代謝	講義	
第5回	脂質の構造と機能	講義	
第6回	脂質代謝	講義	
第7回	タンパク質の構造と機能	講義	
第8回	タンパク質代謝	講義	
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	
第10回	遺伝子と核酸	講義	
第11回	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	
第12回	転写	講義	
第13回	翻訳と翻訳語修飾	講義	
第14回	シグナル伝達・がん・生活習慣病	講義	
第15回	終講試験（60分）・解説（30分）	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 75 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ 25 %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（授業態度 %）
教科書	系統看護学講座. 人体の構造と機能 [2]. 生化学
参考図書	
留意事項	1.テキストに目を通してから講義に臨むこと。 2.新型コロナの状況に応じ講義形態等に変更があることがあります。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学 I	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

食生活が生体の代謝に影響し、健康の保持・増進、疾病の改善に影響を及ぼす事を学び、栄養・食事に必要な基本的知識を修得する。

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要である事を認識できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	栄養学と看護 健康づくり	講義	
第2回	栄養素の種類とはたらき(1)	講義	
第3回	栄養素の種類とはたらき(2)	講義	
第4回	栄養素の消化・吸収・代謝	講義	
第5回	エネルギー代謝	講義	
第6回	栄養ケア・マネジメント	講義	
第7回	栄養状態の評価判定法	講義	
第8回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	
評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験(100%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> その他(%)		

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学、人体の構造と機能[3]、医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学Ⅱ	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

食生活が生体の代謝に影響し、健康の保持・増進、疫病の改善に影響を及ぼすことを学び、栄養・食事に必要な知識を習得する。

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要であることを認識できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ライフステージと栄養(1)	講義	
第2回	ライフステージと栄養(2)	講義	
第3回	ライフステージと栄養(3)	講義	
第4回	調理実習	講義	
第5回	高齢者の食事	講義	
第6回	調理実習	講義	
第7回	臨床栄養	講義	
第8回	終講試験(60分)・まとめ(30分)	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験(100%) <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 演習評価()% <input type="checkbox"/> 小テスト()% <input type="checkbox"/> レポート()% <input type="checkbox"/> その他()%
------	---

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
薬理学	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を修得する。薬物作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的知識を修得する。

目的：看護業務においてヒトへの薬物の治療的応用やその有効性・安全性を習得する。

目標：薬物を用いた疾病の治療、予防や検査を行うための基礎的な知識を習得する。

薬を用いた医療行為の円滑な実践と医療事故の防止を身につける。

◇到達目標

達成目標

- 1) 主な薬物について、期待される主な作用と作用機序、重篤な副作用について述べる事が出来る。
- 2) 薬物の適正使用のための投与上の注意点、薬の管理について述べる事が出来る。
- 3) 薬事法、麻薬、向精神薬取締法を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論第1章（薬理学とは、薬による治療）、第2章（薬力学）	講義	
第2回	総論第2章（薬物動態学、薬物相互作用）	講義	
第3回	第2章（薬効の個人差、薬物使用の有益差と危険性、薬と法律）	講義	
第4回	第3章 抗感染症薬	講義	
第5回	第4章 抗がん薬 第5章 免疫治療薬	講義	
第6回	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
第7回	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
第8回	第8章 中枢神経系に作用する薬物	講義	
第9回	第9章 心臓・血管系に作用する薬物	講義	
第10回	第10章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	
第11回	第11章 物質代謝に作用する薬物	講義	
第12回	第12章 皮膚科・眼科用薬 第13章 救急の際に使用される薬物	講義	
第13回	第14章 漢方薬 第15章 消毒薬	講義	
第14回	付章 輸液製剤・輸血剤・看護業務に必要な薬の知識	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■筆記試験（ 80%） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 20%） □レポート（ %） □その他（ %）
※上記を総合して評価する	

教科書	系統看護学講座 『薬理学』： 医学書院 教科書にそって、パワーポイントにて講義する
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の各章のゼミナールについては確実に理解しておくこと。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
微生物学	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識を習得し、病原体と生体の免疫応答を理解すると共に、各論として病原性細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオンについて学ぶ。

◇到達目標

- (1) 微生物についての基礎的知識を学ぶ。
- (2) 殺菌の手段及びそれらの適切な使用方法を理解する。
- (3) 免疫学の基礎を理解する。
- (4) 主要な病原性細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオンを理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論：A. 緒言	講義	
第2回	B. 細菌；(1) 形態 (2) 構造	講義	
第3回	(3) 増殖 (4) 分類	講義	
第4回	C.ウイルス；(1) 特徴 (2) 構造 (3) 増殖 (4) 分類	講義	
第5回	滅菌と消毒：(1) 物理的殺菌 (2) 化学的殺菌	講義	
第6回	免疫：A.感染防御	講義	
第7回	B.免疫病	講義	
第8回	細菌各論：(1) グラム陽性球菌	講義	
第9回	(2) グラム陽性桿菌 (3) グラム陰性球菌	講義	
第10回	(4) グラム陰性桿菌	講義	
第11回	(5) らせん菌 (6) リケッチア類 (7) マイコプラズマ	講義	
第12回	ウイルス各論：(1) DNA ウイルス	講義	
第13回	(2) RNA ウイルス	講義	
第14回	真菌・原虫・プリオン	講義	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	■筆記試験 (90 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%)
	■小テスト (10 %) □レポート (%) □その他 (%)

教科書	系統看護学講座. 疾病のなりたちと回復の促進 (4). 微生物学
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	外部講師(非公開)	1	2	後期	必修

◇講義概要

疾病や障がいの基本概念を理解するための疾病の成り立ち、器官、組織も変化を通して修得し、看護師として必要な基本知識を修得します。

◇到達目標

病理学は、病気及び病的状態の本質を特に細胞レベルを中心として学ぶ教科です。それに対応するためには、特に主要疾患への本質的な理解が必要で、病理学はその根幹をなす教科です。
日々の看護の実践のために、その基礎となる代表的な疾病を中心として系統的・横断的な知識を身につけて頂きます。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	病理学とは	講義	
第2回	細胞・組織の損傷	講義	
第3回	炎症	講義	
第4回	免疫	講義	
第5回	循環障害 1	講義	
第6回	循環障害 2	講義	
第7回	代謝障害	講義	
第8回	先天異常 1	講義	
第9回	先天異常 2	講義	
第10回	腫瘍 1	講義	
第11回	腫瘍 2	講義	
第12回	呼吸器系の疾患	講義	
第13回	内分泌系の疾患	講義	
第14回	脳・神経系の疾患	講義	
第15回	終講試験 (60分)・まとめ (30分)	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座, 専門基礎分野, 病理学, 医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学 I (循環器)	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

循環器の解剖、病態生理、症状、診断方法、検査の基礎知識を教授する。

◇到達目標

(1) 循環器疾患の特有な症状とその原因を理解し、観察、技術を習得する。 (2) 循環器疾患の検査方法治療法の基礎を習得する。 (3) 臨床の場面での思考、優先順位のつけ方を学習する。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	心臓の構造・機能・病態生理・検査と治療	講義・GW	
第2回	疾患の理解 (弁膜症・大血管・心膜心筋疾患)・リンパ管	講義・GW	
第3回	疾患の理解 (心不全・血圧異常)	講義・GW	
第4回	疾患の理解 (不整脈)	講義・GW	
第5回	疾患の理解 (虚血性心疾患・肺塞栓)	講義・GW	
第6回	臨床の場面から見た虚血性心疾患	講義・GW	
第7回	臨床の場面から見た心不全	講義・GW	
第8回	終講試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座, 専門7, 成人看護学[3], 循環器, 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習: 上記教科書を一度読んでおくこと。 インターネットにて心臓、血管解剖図、心電図を捜しイメージ出来るようになっておくこと。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅱ	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

<p>【呼吸器】 疾患を学ぶには、その臓器の構造と機能を復習する。その上で疾患の持つ病態生理を理解し診断・治療を学ぶ。</p> <p>【脳神経外科】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患)</p>

◇到達目標

<p>【呼吸器】 呼吸器疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させることができるようになる。</p> <p>【脳神経外科】 脳神経疾患の看護に必要な基礎知識を習得する。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【呼吸器】呼吸器の構造と機能・検査	講義	
第2回	【呼吸器】症状とその病態生理	講義	
第3回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第4回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第5回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第6回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第7回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第8回	【脳神経外科】脳神経系の機能と構造	講義	
第9回	【脳神経外科】症状と病態生理	講義	
第10回	【脳神経外科】脳血管障害	講義	
第11回	【脳神経外科】脳腫瘍	講義	
第12回	【脳神経外科】頭部外傷、その他	講義	
第13回	【脳神経外科】疾患の理解	講義	
第14回	【呼吸器】終講試験(60分)・まとめ(30分)	試験・講義	

令和4年度 看護学科 シラバス

第15回	【脳神経外科】終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験・講義	
評価方法	■筆記試験（90%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（10%） □レポート（ %） □その他（ %）		
教科書	系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学[2]，呼吸器，医学書院 系統看護学講座，専門11，成人看護学[7]，脳・神経，医学書院		
参考図書			
留意事項	【呼吸器】適宜プリントを配付する 【脳神経外科】事前学習：解剖生理学の教科書で人体構造（脳・神経）を復習しておくこと		

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅲ	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

<p>【消化器】 消化器疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させることが目的である。</p> <p>【泌尿器】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(消化器系疾患、腎・泌尿器疾患) 泌尿器科疾患に関する概略について理解を深めるとともに看護における役割を認識する。</p> <p>【血液・造血器】 血液・造血器の構成と働きをふまえ、各種血液疾患の病態と治療を学ぶ。</p>
--

◇到達目標

<p>【消化器】 様々な疾患における症状や徴候を病態生理学的に理解することによって、患者の病態を把握し、その原因を考察するための知識を得て、思考過程を学ぶ。疾患を学ぶには、まずその臓器の構造と機能を復習する。その上で疾患のもっている病態生理を理解し、診断、治療を学ぶ。</p> <p>【泌尿器】 看護師国家試験の問題が解ける</p> <p>【血液・造血器】 各血液疾患の概要をイメージできるようになる。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【消化器】 食道・胃の構造と機能	講義	
第2回	【消化器】 食道・胃疾患の診断と治療	講義	
第3回	【消化器】 消化器疾患の症状・徴候とその病態生理	講義	
第4回	【消化器】 小腸・大腸の構造と機能	講義	
第5回	【消化器】 小腸・大腸疾患の診断と治療	講義	
第6回	【消化器】 肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能	講義	
第7回	【消化器】 肝・胆・膵疾患の診断と治療	講義	
第8回	【泌尿器】 教科書 第2章 腎・泌尿器の構造と機能 (A~E) ~第3章 症状とその病態生理 (A~J)	講義	
第9回	【泌尿器】 教科書 第4章 検査と治療・処置 (A~D)	講義	
第10回	【泌尿器】 教科書 第4章 検査と治療・処置 (E~F) ~第5章 疾患の理解 (A~H)	講義	
第11回	【泌尿器】 教科書 第5章 疾患の理解 (I~L)	講義	

令和4年度 看護学科 シラバス

第12回	【泌尿器】教科書 第5章 疾患の理解 (M~O)	講義	
第13回	【血液・造血器】 ○ 血液の生理と造血のしくみ ○ 検査・診断と症候、病態生理	講義	
第14回	【血液・造血器】 ○ 赤血球系の異常 ○ 出血性疾患	講義	
第15回	【血液・造血器】 ○ 白血球系の異常 ○ 造血器腫瘍	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	【消化器】系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学【5】 医学書院 【泌尿器】系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 腎・泌尿器, 成人看護学[8] 医学書院 【血液・造血器】系統看護学講座, 専門分野Ⅱ, 成人看護学4, 血液・造血器, 医学書院
参考図書	
留意事項	【消化器】適宜プリントを配付する 【泌尿器】事前学習：教科書の予習、熟読 【血液・造血器】テキスト中の病名および太字の用語を暗記しておくこと

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学IV	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

<p>【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させる。</p> <p>【運動器】 骨・筋肉・関節を中心とする運動器の構造や機能を知り、それらに起こる疾患や外傷の診断および保存的や手術的方を教授する。近年の急速な少子高齢化により、運動器疾患の急増とともに、その看護の重要性が注目されている。</p> <p>【免疫・アレルギー疾患】 看護業務に役立つ、免疫・アレルギー・膠原病疾患の臨床的基礎知識を理解し修得します。</p>
--

◇到達目標

<p>【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の疾患特有な症状とその原因を理解し、看護に活かせる知識や技術を習得する。</p> <p>【運動器】 1. 運動器の構造や機能を教授する。 2. 骨・筋肉・靭帯・関節に起こる外傷や障害を習得させる。 3. とくにこの領域内でも発生頻度の高い高齢者の骨折、スポーツ障害を習得させる。</p> <p>【免疫・アレルギー疾患】 看護業務実施上、必要な免疫のしくみと、アレルギー・膠原病各疾患の理解を目指します。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義	
第2回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解	講義	
第3回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解	講義	
第4回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解	講義	
第5回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解	講義	
第6回	【運動器】 運動器の構造と機能 運動器の診断学	講義	
第7回	【運動器】 骨折・脱臼	講義	
第8回	【運動器】 脊椎・脊椎疾患（脊椎損傷を含む）	講義	
第9回	【運動器】 関節疾患	講義	
第10回	【運動器】 スポーツ傷害・リハビリ 国試対策	講義	
第11回	【免疫・アレルギー疾患】 膠原病 総論 自己免疫疾患とその機序、病態と症状 検査と治療	講義	

令和4年度 看護学科 シラバス

第12回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病 各論Ⅰ 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症	講義	
第13回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病 各論Ⅱ 多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群、他	講義	
第14回	【免疫・アレルギー疾患】アレルギー 総論 免疫のしくみ 検査と治療	講義	
第15回	【免疫・アレルギー疾患】アレルギー 各論 気管支喘息、アレルギー性鼻炎、他	講義	

評価方法	■筆記試験 (90%) □実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (10%) □レポート (%)	□その他 (%)

教科書	【代謝・内分泌】系統看護学講座, 成人看護学[6], 内分泌・代謝, 医学書院 【運動器】系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学 『10』 医学書院 【免疫・アレルギー疾患】系統看護学講座, 専門分野Ⅱ, アレルギー・膠原病・感染症, 医学書院
参考図書	【運動器】標準整形外科学
留意事項	【免疫・アレルギー疾患】講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学V	外部講師(非常勤)	1	1	後期	必修

◇講義概要

<p>【婦人】 女性の生理機能は複雑であるが、きわめて理論的に理解できるところが多い。 その基本的なところを知ることが他教科のホルモン作用全般の理解につながる。</p> <p>【感染症】 感染症の発症機序、診断、治療、予防について概説する</p> <p>【眼科】 眼科主要疾患の理解</p> <p>【歯科】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理由を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(生殖器疾患、感覚器疾患、歯科・口腔系疾患)</p> <p>【皮膚科】 皮膚の構造と機能や、皮膚疾患の病態生理と症状・検査・診断など、および皮膚科疾患の医療の動向や最近の治療法を教授する</p> <p>【耳鼻科】 耳鼻咽喉科疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの基礎知識を教授する。</p>

◇到達目標

<p>【婦人】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 構造と機能 (女性生殖器及びホルモン作用) ② 検査、治療は一般のそれとどのような特殊性があるか <p>【感染症】 感染症の発症機序、診断、治療、予防についてそれぞれ看護師として説明・実践できる。 医療関連感染症とその影響および予防について説明・実践できる。</p> <p>【眼科】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 眼科外来の特徴と各種検査を通じ、疾患の症状と治療、処置について。 (2) 視力障害のある患者に対する看護に役立たせる。 <p>【歯科】 歯・口腔の構造と機能や歯・口腔疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの治療法と口腔疾患の基礎知識を教授する。 歯・口腔の構造と機能・病態生理について学ばせ、歯と口腔内の治療・処置・特殊検査法など最近治療法やトピックスなどを理解させる。 歯・口腔内の症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。</p> <p>【皮膚科】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 皮膚の構造と機能・病態生理について学ばせ、皮膚疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。 (2) 皮膚科疾患特有な症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。 <p>【耳鼻科】 耳鼻咽喉器官の病態生理について学ばせ、耳鼻咽喉疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。</p>

令和4年度 看護学科 シラバス

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【婦人】 婦人科とホルモン・女性のライフサイクル 性の決定・女性生殖器・月経のメカニズム	講義	
第2回	【婦人】 月経異常、無月経、避妊法、ピル、	講義	
第3回	【婦人】 性感染症、子宮頸癌、子宮体癌	講義	
第4回	【婦人】 子宮筋腫、子宮内膜症	講義	
第5回	【婦人】 卵巣癌、絨毛性疾患、乳癌、不妊症（検査、治療）	講義	
第6回	【感染症】 感染症とは何か、どんな疾患があるか 感染症の発症機序について 感染症の原因となる微生物について 感染症治療における看護師の役割 耐性菌の現状と抗菌薬の適正使用	講義	
第7回	【感染症】 医療関連感染症とは何か、どんな感染症があるか。 医療関連感染症の防止策 標準予防策、特に手指衛生について 感染経路別予防策 職業感染症対策 針刺し・粘膜曝露事故の現状 ワクチン	講義	
第8回	【眼科】 眼科の検査、主要症状・処置	講義	
第9回	【眼科】 主要疾患・治療について	講義	
第10回	【歯科】 歯・口腔の構造と機能 歯の異常と疾患、歯周組織の疾患	講義	
第11回	【歯科】 過去国家試験問題より演習 全身の健康と歯周病とのかかわり	講義	
第12回	【皮膚科】 皮膚の構造と機能、病態生理を中心に皮膚科の総論	講義	
第13回	【皮膚科】 皮膚科疾患の理解を深めるための各論	講義	
第14回	【耳鼻科】 耳の疾患の症状と検査・処置	講義	
第15回	【耳鼻科】 鼻・咽喉頭の疾患の症状と検査・処置	講義	

令和4年度 看護学科 シラバス

評価方法	■筆記試験 (90%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (10%) □レポート (%) □その他 (%)
教科書	【婦人】系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学9女性生殖器，医学書院 【感染症】系統看護学講座 15，成人看護学[11]，アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 【眼科】系統看護学講座，専門Ⅱ，成人看護学[13]，眼，医学書院 【歯科】系統看護学講座，専門 19，成人看護学[15]，歯・口腔，医学書院. 解剖トレーニングノート 医学教育出版社 【皮膚科】系統看護学講座，成人看護学 12，皮膚科，医学書院 【耳鼻科】系統看護学講座、専門Ⅱ、成人看護学 [14]、耳鼻咽喉、医学書院
参考図書	
留意事項	【眼科】事前学習：眼の解剖生理を教科書で復習しておく。 【歯科】事前学習：解剖生理の歯・口腔を復習しておく 【皮膚科】事前学習：教科書を通読しておくこと。 【耳鼻科】解剖生理の教科書で耳鼻咽喉を復習しておく

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学VI (小児)	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

小児の代表的疾患の病態、診断、治療などを教授する。
 小児の代表的疾患の病態を理解させ、診断、治療を習得させる。

◇到達目標

小児期の疾患や障がいの症状・経過の特性、治療、看護の特殊技術を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	小児の成長・染色体異常・先天異常・新生児疾患	講義	
第2回	内分泌・代謝性疾患・血液疾患	講義	
第3回	感染症－ウイルスと細菌	講義	
第4回	免疫・アレルギー疾患・予防接種	講義	
第5回	呼吸器・循環器疾患	講義	
第6回	消化器・悪性新生物・子供の事故外傷	講義	
第7回	腎・泌尿器・神経・精神疾患	講義	
第8回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の予習をすること

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅶ（精神）	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修

◇講義概要

看護師として必要な精神医学の知識を履修すること

◇到達目標

多様な精神疾患への理解

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神疾患の症状	講義	
第2回	精神疾患の検査・治療	講義	
第3回	統合失調症・児童精神	講義	
第4回	うつ病	講義	
第5回	認知症	講義	
第6回	中毒・人格障害	講義	
第7回	不安障害・摂食障害・てんかん・症状精神病	講義	
第8回	まとめ・終講試験	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	系看 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 授業プリント
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療概論	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修

◇講義概要

最近の医療界でトピックになっていることから幾つかを取り上げ、それぞれについて詳しく知り、そこから普遍的な事を学んでいく。

◇到達目標

人生100年時代と言われる現在、これから看護師になるべく学んでいく看護学生にとって必要とされる基礎的スキルを身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会人としての看護師に必要なことを学ぶ	講義	
第2回	児童虐待を知り、教育について学ぶ (+教科書)	講義	
第3回	EBMを知り、正しい情報について学ぶ (+教科書)	講義	
第4回	「死」を知り、終末期医療について学ぶ (+教科書)	講義	
第5回	医療安全を知り、成長について学ぶ (+教科書)	講義	
第6回	災害医療を知り、防災を学ぶ (+教科書)	講義	
第7回	KJ法 (テーマは第6回の講義の最後に出します)	講義	
第8回	定期試験	講義	

評価方法	■筆記試験 (80%)	□実技試験 (%)	■演習評価 (20 %)
	□小テスト (20%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	系統看護学講座「医学概論」
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>【船瀬先生】</p> <p>公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、看護の役割について学ぶ。</p> <p>公衆衛生の歴史をふりかえり、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業看護、環境保健などの諸問題を通して、人々の健康を守るための医療従事者の役割についての理解を深める。</p>
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生活動を歴史的に理解し、その発展過程を踏まえ、現在の健康政策を考察できる。 2. 集団としての健康をまもるためのさまざまな健康指標について理解できる。 3. 公衆衛生の実際を対象別、場面別に実践内容と支援のあり方の概要について理解できる。 4. 公衆衛生は、今もこれからもわたしたちの「生活」に関わる分野です。しっかり理解しておきましょう。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	公衆衛生とは (定義・対象・方法・法的基盤)	講義	
第2回	公衆衛生の歴史 (日本と世界) 新たな公衆衛生の理念	講義	
第3回	公衆衛生の活動対象 (看護職の公的責任・社会集団をとらえる視座)	講義	
第4回	公衆衛生のしくみ (国と地域自治体の役割・専門職の働き・住民との協働)	講義	
第5回	集団の健康をとらえるための手法 (疫学・保健統計)	講義	
第6回	国際保健 地域における公衆衛生の実践 (公衆衛生看護とは・母子保健)	講義	
第7回	地域における公衆衛生の実践 (成人保健・高齢者保健)	講義	
第8回	学校と健康 (学校保健と養護教諭・学校保健の展開)	講義	
第9回	職場と健康 (産業保健・健康管理) 健康危機管理・災害保険	講義	
第10回	第8章 地域における公衆衛生の実践 E 精神保健	講義 (小テスト) 質疑	
第11回	第8章 地域における公衆衛生の実践 G 障害者保健・難病保健	講義 (小テスト) 質疑	
第12回	第5章 環境と健康 A 地域規模の環境と健康	講義 (小テスト) 質疑	
第13回	第5章 環境と健康 B 身のまわりの環境と健康	講義 (小テスト) 質疑	

令和5年度 看護学科 シラバス

第14回	第6章 感染症とその予防対策	講義(小テスト) 質疑	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	神馬征峰他. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生 第14版第2刷 東京:医学書院;2021. (ISBN978-4-260-03574-3)
参考図書	国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会
留意事項	<p>【船瀬先生】①テキスト・ノート・筆記用具持参 ②事前学習・適時指示する。 ③予習をしておくこと。</p> <p>【小林先生】教科書・ノート・筆記用具持参のこと。 該当部分を既読して、ある程度理解していることを前提に進めます。</p>

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会福祉論	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修

◇講義概要

社会福祉及び社会保障について、歴史的過程と現状、行政、人々の生活及び保健、医療、福祉、看護の関わりについて学ぶ。

◇到達目標

社会福祉の仕組みや法体系を理解する。
 社会を構成する家族、地域の機能変化と社会福祉制度の関係を理解する。
 看護師に必要な社会福祉に関する知識を獲得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会の変化 少子と高齢化①	講義	
第2回	社会の変化 少子と高齢化②	講義	
第3回	社会の変化 少子と高齢化③	講義	
第4回	家族形態の変化①	講義	
第5回	家族形態の変化①	講義	
第6回	家族力、地域力の変化①	講義	
第7回	家族力、地域力の変化②	講義	
第8回	人口構成の変化と社会保障①	講義	
第9回	人口構成の変化と社会保障②	講義	
第10回	社会を支える諸制度の成り立ち①	講義	
第11回	社会を支える諸制度の成り立ち②	講義	
第12回	戦前から戦後の社会福祉①	講義	
第13回	戦前から戦後の社会福祉②	講義	
第14回	選別的福祉から普遍的福祉へ	講義	
第15回	試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度点 30%)
------	--

教科書	「社会福祉」健康支援と社会保障制度③ 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストを事前に熟読してください。また新聞、ニュース等を通して福祉問題に関心を持ってください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
関係法規	外部講師(非公開)	2	2	後期	必修

◇講義概要

法の一般的・基本的事項の要点と看護関係法令の基本となる看護法・医療法・衛生法などについて学ぶ。
また、それらの法律がその分野においてどのような関わり方をしているのかについて学ぶ。

◇到達目標

1. 法の基本的知識について理解できる。
2. 保健師助産師看護師法について理解できる。
3. 主な医事法規・保健衛生法・社会保険法の基礎的知識を理解できる。
4. 労働関係法規の基礎的知識を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス・法の基礎的知識・看護と法	講義	
第2回	保健師助産師看護師法 ①	講義	
第3回	保健師助産師看護師法 ②	講義	
第4回	看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	
第5回	医事法	講義	
第6回	医療関係資格法（医師法・歯科医師法・薬剤師法）	講義	
第7回	医療を支える法（臓器移植に関する法・人の死に関する法など）	講義	
第8回	保健衛生法 ①地域保険法と健康増進法	講義	
第9回	保健衛生法 ②精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	講義	
第10回	保健衛生法 ③母子保険法・母体保護法など	講義	
第11回	保健衛生法 ④感染症に関する法・食品に関する法・環境衛生法	講義	
第12回	薬務法・環境法	講義	
第13回	社会保険法（健康保険法・介護保険法など）	講義	
第14回	労働法と社会基盤設備	講義	
第15回	試験 + まとめ	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	森山幹夫. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令. 第53版第1刷. 東京：医学書院；2021. (ISBN978-4-260-04344-1)
参考図書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会
留意事項	①テキスト・ノート・筆記用具持参 ②事前学習 適時指示する。 ③予習をしておくこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション論	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p><input type="checkbox"/>教育目標 成人各期の特徴及びリハビリテーション看護に必要とされる知識・技術を発症から維持期に至るまでの経過を踏まえ対象となる人の身体的・心理的・社会的特徴、リハビリ看護の役割と機能を学習する。</p> <p><input type="checkbox"/>授業概要 リハビリテーションという視点から医療を捉えることで看護の機能の重要な側面について学ぶ。</p>

◇到達目標

<p><input type="checkbox"/>リハビリテーションを必要とする人の特徴と看護援助を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>身体機能維持・回復を促すための看護援助及び障害者の日常生活行動を再構築するための援助方法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>チーム医療及びリハビリチームにおける看護師の役割と機能について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>家族への援助方法を理解する。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーション概論 (1)	講義	
第2回	リハビリテーション概論 (2)	講義	
第3回	リハビリテーション看護概論 (1)	講義	
第4回	リハビリテーション看護概論 (2)	講義	
第5回	運動器系の障害とリハビリテーション看護 (1)	講義	
第6回	運動器系の障害とリハビリテーション看護 (2)	講義とレクリエーション	
第7回	呼吸・循環器の障害とリハビリテーション看護 (1)	講義	
第8回	呼吸・循環器の障害とリハビリテーション看護 (2)	講義	
第9回	感覚器系の障害とリハビリテーション看護 (1)	講義	
第10回	感覚器系の障害とリハビリテーション看護 (2)	講義とレクリエーション	
第11回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1)	講義	
第12回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (2)	講義	
第13回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (3)	講義	
第14回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (4)	講義	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	<p>■筆記試験 (100 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%)</p> <p>□小テスト (%) □レポート (%) □その他 (数%)</p>
------	--

教科書	系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院
参考図書	
留意事項	<p>授業を休まない。授業時マスクは必ず着用する。</p> <p>【ソックスエイド作成時の持ち物】ハサミ (大きめのもの)・油性マジック・穴あけパンチ・太い目のヒモ</p> <p>【レクリエーション時の持ち物】アイマスク (バンダナ) 等の目隠しができるもの</p>

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の概念	外部講師(非公開)	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

看護とは何か、看護理論を学び看護・看護学の現状と方向性を学び、理解することができる。
看護の機能と役割を理解し、また、健康の意義とチーム医療の場で、看護実践に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 高名な看護理論家の看護概念を知り、看護の専門職として必要な知識・技術・態度を修得する
2. 人間のライフスタイルにおける健康の意義を理解し、豊かな人間性を育み、更に人間関係を重視した看護活動に活かす幅広い知識が習得できる。

◇授業計画

回数	内 容	講義形態	備 考
第1回	第1章 看護学を学び始めるに当たって A.看護とはなにををする職業なのだろうか	講義 グループワーク	
第2回	第1章 看護とは A看護の本質 1. 看護の変遷 看護の原点・看護の歴史（世界・日本の看護の歴史）	講義	
第3回	2. 看護の定義 ①保健師・助産師・看護師法における定義 ②看護職能団体による看護の定義	講義	
第4回	③看護理論家にみる看護の定義 *看護哲学を論じた理論家による看護の捉え方 フローレンス＝ナイチンゲール・ヴァージニア＝ヘンダーソン他	講義 ビデオ	
第5回	*概念モデル ドロセア＝E＝オレム シスター＝カリスタ＝ロイ ほか *理論・中範囲理論 ヒデルガード＝E ペプロウほか	講義	
第6回	理論家による看護の捉え方 ③現代の動向と今後の展望	講義	
第7回	B看護の役割と機能 ①看護ケアについて *ケアとは *看護におけるケア（ケア・キュア・コア・文化的ケア *ヒューマンケアリング）*まとめ	講義	
第8回	②看護実践とその質保証に必要な要件 *看護実践に欠かせない要素 芸術としての看護 個別的看護 *看護の質保証に欠かせない要件 安全性と安楽性	講義	
第9回	*看護の役割・機能の拡大 C看護の継続性と連携	講義 グループワーク	

令和4年度 看護学科 シラバス

第10回	第2章 看護の対象の理解 A 人間の「こころ」とからだ」を知ることの意味 ホメオスターシス・ストレス・人間のニード・危機理論 B 生涯発達し続ける存在としての人間の理解 身体的、心理社会的側面における発達	講義	
第11回	C 人間の暮らしの理解 第3章 国民の健康状態と生活 A 健康の捉え方 B 国民の健康状態 C 国民のライフサイクル	講義 G ワーク	
第12回	第4章 看護の提供者 A 職業としての看護 *看護職の資格・養成制度と就業状況 *看護職の継続教育とキャリア開発 *看護職の養成制度の課題	講義	
第13回	第5章 看護における倫理 *なぜ倫理について学ぶのか *医療をめぐる倫理 *現代医療における倫理的課題 *看護実践における倫理的課題	講義	
第14回	第6章 看護の提供のしくみ *サービスとしての看護 *看護サービス提供の場 *継続看護	講義	
第15回	まとめ 30分 終講試験 60分	講義 テスト	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 2020年1月6日発行 第17版第1刷C
参考図書	看護の基本となるもの V.ヘンダーソン 看護協会出版会, 2020.1.20 再新装版 第4刷発行 看護覚え書き F.ナイチンゲール, 日本看護協会出版会, 2019.10.1 第1版第1刷発行
留意事項	本を熟読しておくこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	坂本洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目標 健康上の問題や障害を持つ人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにし、解決に向けた看護援助を提供するためのプロセスを学ぶ。</p> <p>授業概要 看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。</p>
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。 2. ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。 3. アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。 4. 看護計画の評価の視点が理解できる。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か 看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析の視点	講義	
第5回	情報の分類・整理、解釈・分析 事例演習：情報の分類	講義・演習	
第6回	事例演習：アセスメント	講義・演習	
第7回	看護診断とは 看護診断の記述法	講義	
第8回	看護問題の明確化（看護診断）	講義・演習	
第9回	関連図を用いた看護診断の統合	講義	
第10回	看護診断の優先順位	講義	
第11回	看護計画の目的と概要 事例展開演習	講義・演習	
第12回	看護計画の実施前の準備や実施上の注意点と看護記録の書き方	講義	
第13回	看護計画の発表	演習	

令和5年度 看護学科 シラバス

第14回	看護計画の発表 看護計画を評価する目的と方法	演習・講義	
第15回	終講試験・まとめ	講義	

評価方法	■筆記試験 (40 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	■レポート (60 %)	□その他 (%)

教科書	系統看護学講座, 専門Ⅱ基礎看護技術 I	医学書院
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 看護診断ハンドブック	照林社 医学書院
留意事項		

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・矢追裕子 阪本由美・深水和子	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

- 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおい、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる
- コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる
- 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる
- 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる
- 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる
- 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツの畳み方・ベッドメイキング	講義	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①	講義	稲葉 由美
第6回	コミュニケーション技術②	講義・GW	稲葉 由美
第7回	コミュニケーション技術③	講義・GW	稲葉 由美
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	矢追 裕子
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	矢追 裕子
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	矢追 裕子
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	矢追 裕子
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	阪本 由美
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	阪本 由美
第14回	安全を守る技術	講義・GW	深水 和子
第15回	試験 (60分)・まとめ (30分)	講義・試験	稲葉 由美

評価方法	■筆記試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

令和4年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院.
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア 基礎・臨床 看護技術 医学書院
留意事項	適宜 DVD 等の視覚教材を使用

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	深水和子・山本桂・矢追裕子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

- 1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
- 2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
- 3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
- 4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
- 5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
- 6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「活動」 基本的活動の援助 (体位、体位変換)	講義	山本 桂
第2回	「姿勢・体位・活動」 体位保持、移動・移乗・移送	講義	山本 桂
第3回	「睡眠・休息」 睡眠と休息の援助	講義	山本 桂
第4回	「循環 (電法)」 体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	山本 桂
第5回	「食事と栄養」 ①食事援助の基礎知識	講義	山本 桂
第6回	「食事と栄養」 ②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	山本 桂
第7回	「食事と栄養」 ③非経口栄養摂取の援助	講義	山本 桂
第8回	「清潔・衣生活」 ① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	深水 和子
第9回	「清潔・衣生活」 ②病床での衣生活の援助	講義	深水 和子
第10回	「清潔・衣生活」 ③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴 (足浴・手浴)	講義	深水 和子
第11回	「清潔・衣生活」 ④洗髪・整容	講義	深水 和子
第12回	「排泄」 ①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	矢追 裕子
第13回	「排泄」 ②導尿 (一時的導尿・持続的導尿)	講義	矢追 裕子
第14回	「排泄」 ③排便を促す援助 (浣腸・摘便)、ストーマケア	講義	矢追 裕子
第15回	試験 (60分)・まとめ (30分)	講義・試験	矢追 裕子

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院.
参考図書	
留意事項	適宜 DVD 等を使用

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本桂・水田あき	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ

◇到達目標

<p>1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる</p> <p>2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる</p> <p>3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる</p> <p>4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸：酸素吸入療法	講義	矢追裕子
第2回	呼吸：吸引（一時的吸引・持続的吸引）	講義	矢追裕子
第3回	呼吸：排痰ケア・吸入・人工呼吸療法	講義	矢追裕子
第4回	診察・検査：検体検査	講義	水田あき
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	水田あき
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術、採血	講義	水田あき
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	山本桂
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	山本桂
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	山本桂
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	山本桂
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	矢追裕子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	矢追裕子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	矢追裕子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	矢追裕子
第15回	終講試験（45分）まとめ（45分）	試験・まとめ	山本 桂

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜 DVD などを使用します
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅳ バイタルサイン・フィジカルアセスメント・救命救急処置・死亡時の看護	水田あき・森 広美・深水和子	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

対象の健康段階に応じて、的確な観察力や判断力が速やかに看護に活かせる技術の基本的知識を学ぶ

◇到達目標

1. 生命機能の正常と異常を知り、異常の早期発見のアセスメント視点を考えることができる。
2. 生命の危機状態にある対象の特徴を知り、状況に応じた看護技術の必要性が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	バイタルサインとは	講義	水田あき
第2回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍）	講義	水田あき
第3回	バイタルサインの観察技術（呼吸・血圧）	講義	水田あき
第4回	バイタルサインの観察技術（血圧・意識）	講義	水田あき
第5回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍・呼吸・血圧）	講義	水田あき
第6回	フィジカルアセスメント①脳・脳神経	講義	深水和子
第7回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系・乳房・生殖器	講義	深水和子
第8回	フィジカルアセスメント③肺（呼吸器系）・胸部	講義	深水和子
第9回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	講義	深水和子
第10回	フィジカルアセスメント⑤心臓・循環器系	講義	深水和子
第11回	フィジカルアセスメント⑥腹部・消化器系・直腸・肛門	講義	深水和子
第12回	救急救命処置①一次、二次救急	講義	森 広美
第13回	救急救命処置②三次救急	講義	森 広美
第14回	死亡時の看護	講義	森 広美
第15回	終講試験（45分）・まとめ（45分）	試験・まとめ	深水和子

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・深水和子・山本桂・矢追裕子	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「コミュニケーション技術」	演習	稲葉 由美
第2回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	矢追 裕子
第3回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	矢追 裕子
第4回	「安全管理」	演習	藤井 祐美子
第5回	「環境調整」ベッドメイキング①	演習	矢追 裕子
第6回	「環境調整」ベッドメイキング②	演習	矢追 裕子
第7回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	山本 桂
第8回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子の移乗・移送 ③ベッドからストレッチャーへの移乗・移送	演習	山本 桂
第9回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持（ポジショニング）	演習	山本 桂
第10回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	深水 和子
第11回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	深水 和子
第12回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	深水 和子
第13回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	深水 和子
第14回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	深水 和子
第15回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	深水 和子
第16回	「排泄」①床上排泄援助（尿器、便器）、オムツ交換	演習	矢追 裕子
第17回	「排泄」②グリセリン浣腸、排便援助、失禁ケア	演習	矢追 裕子
第18回	「排泄」③一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	矢追 裕子
第19回	「排泄」④ストーマケアの援助	演習	矢追 裕子
第20回	「食事と栄養」①食事援助	演習	山本 桂
第21回	「食事と栄養」②口腔ケア・嚥下訓練	演習	山本 桂
第22回	「食事と栄養」③経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	山本 桂
第23回	「循環（電法）」温電法、冷電法、マッサージ	演習	山本 桂

評価方法	□筆記試験（ %） ■実技試験（ 100 %） 「リネン交換」で50%、「全身清拭と寝衣交換」で各50% □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %）
------	--

令和4年度 看護学科 シラバス

	□その他
教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②2021 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③2021 医学書院.
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア 基礎・臨床 看護技術 医学書院
留意事項	適宜 DVD 等を使用します。 演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅱ	水田あき・森 広美・矢追裕子 山本 桂・深水和子・中西信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護技術の基礎的理論や特質を理解し、疾病・障害をもつ対象に応じた日常生活動作の基本的な援助技術を習得する。

◇到達目標

1. 安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる。
2. 対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	バイタルサイン測定①体温・脈拍・呼吸・血圧	演習	水田あき
第2回	バイタルサイン測定②体温測定から報告まで	演習	水田あき
第3回	呼吸：吸引・吸入・酸素療法・体位ドレナージ	演習	矢追裕子
第4回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル	演習	山本桂
第5回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理	演習	山本桂
第6回	検査：採血（シュミレーター使用）	演習	水田あき
第7回	包帯法・創傷の管理	演習	矢追裕子
第8回	フィジカルアセスメント①脳神経系（頭部・顔面・頸部）	演習	深水和子
第9回	フィジカルアセスメント②脳神経系（眼・耳・鼻・口腔）	演習	深水和子
第10回	フィジカルアセスメント③筋・骨格系、乳房、生殖器	演習	深水和子
第11回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	演習	深水和子
第12回	フィジカルアセスメント⑤肺（呼吸器系）・胸部	演習	深水和子
第13回	フィジカルアセスメント⑥心臓・循環器系	演習	深水和子
第14回	フィジカルアセスメント⑦心臓・循環器系	演習	深水和子
第15回	フィジカルアセスメント⑧腹部・消化器系・直腸・肛門	演習	深水和子
第16回	救命救急処置①一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第17回	救命救急処置②一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第18回	救命救急処置③一次救急処置（小児・乳児の心肺蘇生法）	演習	中西信之
第19回	救命救急処置④止血法・気道異物除去・その他（45分）	演習	森 広美
第20回	救命救急処置⑤二次救急処置（急変時の対応・挿管介助）	演習	森 広美
第21回	死亡時の看護	演習	森 広美
第22回	バイタルサイン測定③ 技術試験	実技試験	水田あき
第23回	バイタルサイン測定④ 技術試験	実技試験	水田あき

令和4年度 看護学科 シラバス

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (50 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護推論	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

シミュレーション学習法を用いて、専門基礎分野・基礎看護技術で学んだ知識・技術を統合し、判断・対応を学ぶ。

◇到達目標

既習の知識をもとに患者の状態・状況に応じて判断し、確実に援助を実施できる

1. 事例の状況から患者像をイメージし、援助に必要な内容について学習できる
2. 学習した内容を活用し、指定された技術について援助計画を立案できる
3. 看護実践における倫理的態度について実践できる
4. 患者の状態・状況を考慮しながら指定された援助を実施できる
5. 一連のプロセスを振り返り、自己の課題を明確にできる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	講義全体の方法について、グループワークについて	講義	事前レポート作成
第2回	事例について (個人ワーク・グループワーク)	講義・演習	
第3回			
第4回	筆記試験 (45分)	試験	
第5回	試験の解説	講義	
第6回	技術練習	グループ演習	事前レポート提出
第7回	技術練習	グループ演習	
第8回	技術試験	実技試験	振り返りレポート

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	看護技術 看護過程に沿った対象看護 第5版 学研
留意事項	※提出物の期限を確実に守るよう、計画的にすすめること ※各自責任を持って主体的にすすめること

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護総論	山本 桂・萱島 道德	1	1	後期	必修

◇講義概要

<p>【今井】看護の対象となる人々を理解し看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践に役立てるプロセスを学ぶ。</p> <p>【萱島】ME 機器の安全使用</p>
--

◇到達目標

<p>【今井】1.看護の対象者となる、あらゆる年齢層の人、様々な健康レベルの人々について理解する。 2.具体的な対象者の症状のメカニズムを基盤にアセスメントの視点を学ぶ。 3.治療・検査の基礎知識と看護実践を展開する基本的な思考過程にそって看護援助を学ぶ。</p> <p>【萱島】事事例を通して、ME 機器使用の基本を理解する。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ライフサイクルから捉えた看護	講義	山本
第2回	家族の機能、生活と療養の場	講義	山本
第3回	健康状態の経過に基づく看護(急性期)	講義	山本
第4回	健康状態の経過に基づく看護(回復期)	講義	山本
第5回	健康状態の経過に基づく看護(慢性期)	講義	山本
第6回	健康状態の経過に基づく看護(終末期)	講義	山本
第7回	主要な症状を示す対象者への看護(呼吸、循環、栄養)	講義	山本
第8回	主要な症状を示す対象者への看護(排泄、活動と休息、認知と知覚)	講義	山本
第9回	主要な症状を示す対象者への看護(コーピング、安全、安楽)	講義	山本
第10回	事例についてのグループワーク	GW	山本
第11回	ME 機器と安全な使用について 除細動器について	講義	萱島
第12回	患者監視装置について 心電図モニタ・パルスオキシメータ・カフノータ・自動血圧計	講義	萱島
第13回	人工呼吸器の基礎	講義	萱島
第14回	医療ガス・電気設備について 実機の説明	講義 機器の実際	萱島
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	山本 萱島

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	系統看護学講座 別巻17 臨床看護学総論 医学書院
参考図書	
留意事項	教科書の理解

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	研究に必要な情報の探索と吟味（情報処理室）	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（45分）・まとめ（45分）	試験/まとめ	

評価方法	■筆記試験（ 50 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） ■レポート（ 50 %） □その他（ %）

教科書	看護研究、医学書院、2022
参考図書	
留意事項	

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	3	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護実践を振り返り、自分の課題について必要なポイントをふまえた研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
2. 倫理的配慮を考えることができる
3. 文献検討を行い多様な考え方を学ぶことができる
4. 研究のプロセスを理解することができる
5. 作成した研究計画に沿って課題を探究し、ケーススタディを作成できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	テーマの決定	講義	
第2回	関連文献の検索とクリティーク	演習	
第3回	研究計画の作成	演習	
第4回	ケーススタディの実施	演習	
第5回	ケーススタディの実施	演習	
第6回	ケーススタディの実施	演習	
第7回	発表スライドの作成のポイント	講義・演習	
第8回	発表原稿の作成（45分）	講義・演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験（ %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（ %）	<input type="checkbox"/> 演習評価（ %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（ %）	<input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 100 %）	<input type="checkbox"/> その他（ %）

教科書	看護研究、医学書院、2021
参考図書	松本、森田編、看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、講談社、2015 高橋監修、看護学生のためのケーススタディ、メヂカルフレンド社、2016
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護論	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

地域のなかでの暮らしや、システムについて知り、地域の人々の暮らしを支える看護について考える。

◇到達目標

1. 学校の所在する「地域」に目を向けて、地域の特徴を理解する。
2. 健康障害が生じても、安心して地域で暮らし続けるための課題を考える。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	人々の暮らしの理解	講義	
第2回	暮らしを理解する	演習 グループワーク	
第3回	暮らしと健康・暮らしと地域のかかわり	講義	
第4回	暮らしと地域を理解するための考え方	講義	
第5回	地域包括ケアシステムと家族	講義	
第6回	学校の所在する地域を理解しよう	演習 グループワーク	
第7回	地域・在宅看護の役割	講義	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護方法論	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法を学び、地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組む。また、暮らしを支える多職種との連携・協働について考える。

◇到達目標

1. 地域・在宅看護実践において重要な視点が分かる。
2. 地域・在宅看護実践に欠かせない要素を言える。
3. 地域・在宅看護実践の場における多職種連携について考えることができる。
4. 地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組むことができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	地域・在宅看護が関わる療養の場 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義	
第2回	暮らしの環境を整える看護	講義・演習	
第3回	地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策	GW	
第4回	様々な職種で支える地域での暮らし 多職種との連携・協働を考える。	講義・GW	
第5回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動	講義・GW	
第6回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動	演習	
第7回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動 健康づくり活動の実施（北福祉センター）	演習	
第8回	健康づくり活動の評価・まとめ 健康づくり活動の評価・修正（45分）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験（ %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（ %）	<input checked="" type="checkbox"/> 演習評価（ 40 %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（ %）	<input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 60 %）	<input type="checkbox"/> その他（ %）

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の基盤 第6版
参考図書	
留意事項	地域看護論の履修必須

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護概論	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目標 社会情勢の変化、人々の健康に対する考え方や健康生活への認識の変化を知り、在宅看護の制度と支援体制について理解する。</p> <p>授業概要 在宅看護の歴史や制度を理解するための講義が中心の授業を行う。</p>
--

◇到達目標

<p>在宅看護の目的や役割について知る。</p> <p>在宅療養者を支える制度について知る。</p> <p>在宅看護の特性を知り、継続看護の重要性を考えることができる。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 在宅看護の目的, 目指すもの	講義	
第2回	在宅看護における看護師の役割 在宅看護における看護師の倫理	講義	
第3回	第2章 在宅看護の対象者の特徴	講義	
第4回	在宅看護対象としての家族システム	講義	
第5回	第3章 在宅看護の制度について	講義	
第6回	介護保険制度	講義	
第7回	第4章 訪問看護ステーションの機能と制度	講義	
第8回	まとめ【30分】 地域における多職種の連携のあり方の実際 終講試験【60分】	まとめ 試験・	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	1) 系統看護学講座, 統合分野, 在宅看護論, 河原加代子他, 医学書院, 2022. 参考図書 2) 在宅看護論—地域療養を支えるケア, メディカ出版, 2022 3) 新体看護学全書, 在宅看護論, メヂカルフレンド社 2019
参考図書	厚生統計協会編: 国民衛生の動向
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論 I - 1	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標	地域社会で生活する対象の健康回復・保持・増進に必要な在宅看護あり方を習得する。
授業概要	在宅看護展開の基礎と支援体制や権利保障について学び、福祉用具の見学をする。

◇到達目標

到達目標	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、対象がその人らしい生活をするための援助やマネジメントを学ぶ。
------	--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅看護過程の展開ポイント	講義	
第2回	看護過程の特徴・情報とアセスメント	講義	
第3回	環境に対するアセスメント	講義	
第4回	社会資源に対するアセスメント	講義	
第5回	介護力・経済力に対するアセスメント	演習	
第6回	在宅看護の目標・計画	講義	
第7回	実施と評価	講義	
第8回	在宅看護の標準化の取り組み	講義	
第9回	多職種との連携	講義	
第10回	入退院における医療機関と訪問看護の連携	講義	
第11回	在宅における安全性	講義	
第12回	災害時の看護・対象者の権利保障	講義	
第13回	在宅福祉用具見学	講義	
第14回	〃 レポート	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学, 統合分野, 在宅看護論, 医学書院, 河原加代子 2022
参考図書	視覚教材: 訪問看護ビデオシリーズ
留意事項	福祉住環境施設の見学で, 福祉用具, 福祉住環境についての学習をする

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論 I-2	外部講師（非公開）	2	1	後期	必修

◇講義概要

地域社会で生活する対象の健康回復、保持、増進に必要な在宅看護の技術や方法を習得する。

◇到達目標

- 1、対象の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、その人らしい生活を送るために必要なマネージメントや援助の方法を理解できる。
- 2、在宅における日常生活動作や認知症・終末期看護に関連するアセスメントや援助技術を理解できる。
- 3、在宅での医療技術について理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅医療技術①褥瘡とその予防	講義	
第2回	②膀胱留置カテーテルを必要とする対象者への援助技術	講義	
第3回	③ストーマを必要とする対象者への援助技術	講義	
第4回	④経管栄養や在宅中心静脈栄養を必要とする対象者への援助技術	講義	
第5回	生活行動に必要な分析と介助方法	講義	
第6回	移動・移乗に関する在宅看護技術	講義	
第7回	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	講義	
第8回	排泄に関する在宅看護技術	講義	
第9回	清潔に関する在宅看護技術	講義	
第10回	呼吸機能・在宅酸素療法（HOT）を必要とする対象者への援助技術	講義	
第11回	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）や在宅呼吸療法（HMV）の援助技術	講義	
第12回	在宅看護における認知症のアセスメントと援助技術	講義	
第13回	疼痛緩和を必要とする対象者への援助技術	講義	
第14回	在宅における終末期看護	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（10%） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座統合分野,在宅看護論,医学書院,河原加代子他,2018
参考図書	写真でわかる訪問看護アドバンス,インターメディカ,押川真喜子,2016 帝人在宅医療 KK のビデオ
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅱ	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

在宅看護の方法論は、地域社会で生活する対象の健康回復,保持,増進に必要な在宅看護の技術や方法を習得する。

◇到達目標

- 1.対象の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、その人らしい生活をするために必要なマネージメントや援助の方法を理解できる。
- 2.在宅看護活動の実際を、事例を通して理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養移行期	講義	
第2回	在宅療養安定期,急性増悪期,終末期, 脳卒中の在宅療養導入の事例	講義	
第3回	パーキンソン病・認知症療養者に対する在宅看護	講義	
第4回	小児・ALSで人工呼吸器を実施する在宅看護	講義	
第5回	COPD・独居の療養者・統合失調症に対する在宅看護	講義	
第6回	事例展開 グループワーク	講義・GW	
第7回	事例展開 グループワークと演習	GW	
第8回	終講試験(30分) 総括(30分)	試験 講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (50 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座統合分野, 在宅看護論, 医学書院, 河原加代子他, 2022
参考図書	在宅看護論—地域療養を支えるケア, メディカ出版,2022 他
留意事項	演習は、グループ事例の計画に沿った技術の実施や実習記録についての学びを深める。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学概論	加茂 清美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

成人期の人々の発達における特徴とその課題、健康上の要求を理解し、健康に影響する環境の諸因子および疾病などを学習し、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護の方法と実践力を修得する。

◇到達目標

1. 成人期にある人々を発達段階、健康と生活・社会・環境の視点から理解する。
2. 成人に対する看護アプローチの基本として、アンドラゴジー・人間関係・集団力学・看護倫理・意思決定・家族支援を理解する。
3. 成人の健康レベルに対応した看護の基本について理解する。
4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	成人期にある人の理解 1) ライフサイクルにおける成人期 2) 成人期の成長発達・発達課題	講義	
第2回	成人各期の特徴・健康問題	講義	
第3回	成人の生活	グループワーク (発表)	
第4回	健康を脅かす要因と看護 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 健康生活の破綻・障害の受容と生活	講義 動画視聴	レポート 提出
第5回	生活習慣に関連する健康問題と対策 ワークライフバランスに関連する健康問題と対策	講義	
第6回	成人の看護に有用な概念	講義	
第7回	①アンドラゴジー ②エンパワメント ③病みの軌跡 ④セルフケア ⑤危機 ⑥適応 ⑦自己効力	グループワーク (発表)	
第8回	まとめ (30分)・終講試験 (60分)	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 成人看護学総論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	*課題に対する発表・レポートの提出と筆記試験があります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論 I (急性期)	加茂 清美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

手術療法を受ける患者とその家族の QOL を高める方法について学ぶ。また手術による心身の侵襲を予測し、周手術期における看護の役割と実践方法を学ぶ

◇到達目標

1. 周手術期にある患者の特徴が理解できる
2. 周手術期看護の特徴が理解できる
3. 周手術期の過程が理解できる
4. 周手術期にある患者の看護援助が理解できる
5. 周手術期にある患者とその家族に対する看護の役割が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	周手術期とは 1)がん患者の生活背景や心理について 2)周手術期看護に必要な概念 (1)意思決定の支援 (2)新たな健康管理の再構築 (3)ボディイメージ変容に関する支援	講義	
第2回	術前看護 1) 手術オリエンテーション 2) 術前訓練 3) 術前日、当日の看護	講義	
第3回	術中看護 1) 手術室の環境 2) ガウンテクニックと感染対策 3) 麻酔の基礎知識と麻酔中の援助について 4) 麻酔導入の援助 (全身麻酔、硬膜外麻酔) 5) 気管内挿管から手術開始まで	講義	
第4回	術中看護 1) 人工呼吸器装着中の患者の援助 2) 気管内挿管から手術開始までの援助 3) 手術中に使用する ME 機器 4) 術中の合併症の予防に関する援助 (神経麻痺・褥瘡予防) 5) 手術中の看護師の役割	講義 グループワーク①	
第5回	手術における生体反応と回復過程 1) 手術侵襲による生体反応 2) Moore の手術後の回復過程	講義 グループワーク②	
第6回	術後合併症と看護 1) 呼吸器合併症 2) 循環合併症 3) 消化器合併症	講義 グループワーク③	

令和5年度 看護学科 シラバス

	4) 術後疼痛 5) 静脈血栓症		
第7回	1. 術後合併症と看護 1) 術後創感染 2) 術後せん妄 2. 周手術期の安全管理と他職種連携 3. 術式による特徴的な手術看護 1) 腹腔鏡、胸腔鏡手術の特徴	講義	
第8回	手術期演習 1) 術前オリエンテーションと術前訓練の指導 2) 術直後の観察、術後1日目の看護演習	講義	小テスト (1)
第9回	周手術期演習 1) 術前オリエンテーションと術前訓練の指導 2) 術直後の観察、術後1日目の看護演習	講義	
第10回	術式による特徴的な手術看護 1) 開腹手術（消化器・腎・泌尿器・ストーマ）と退院指導	講義 グループワーク④	
第11回	術式による特徴的な手術看護 1) 動器疾患・感覚器疾患・乳房疾患・開頭術・開胸術・開頭術・頸部の手術	講義 グループワーク⑤	
第12回	手術事例より周手術期看護の展開 1) 術前術後カレンダーの作成と運用	講義 グループワーク⑥	
第13回	手術事例より周手術期看護の展開 1) 急性期フローチャート・アセスメント	講義	小テスト (2)
第14回	手術事例より周手術期看護の展開 1) 事例患者の看護計画の実施	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ解説（30分：試験後に）	試験・講義	

評価方法	■筆記試験（75%） □実技試験（ %） □演習（ %）
	■小テスト（10%） ■レポート（15%） □その他（ %）

教科書	成人看護学 周手術期看護 第3版 ヌーベルヒロカワ
参考図書	臨床外科看護総論 医学書院
	臨床外科看護各論 医学書院
	周手術期の臨床判断を磨く 医学書院
	はじめての手術看護 メディカ出版
	周手術期看護 インターメディカ
	解剖生理学 医学書院
	病態生理学 医学書院
	系統看護学講座 成人看護学 （循環器、呼吸器、脳神経、消化器、運動器） 医学書院
留意事項	教科書、参考図書を参考にして、事前学習の上、講義に臨むこと 毎回の授業まとめの内容から、終講試験の出題をします。 今年度は、状況によりグループワークが個人ワークになる可能性があります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅱ (セルフケアの再獲得)	森 広美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

セルフケアの低下状態にある成人について理解し、セルフケアの再獲得を支援し、QOLの視点を踏まえた看護を習得する。

◇到達目標

1. リハビリテーション看護の考えと回復期の患者の看護援助を理解する。
2. 成人期にある患者及びその家族の特徴や健康問題の治療過程・回復過程を理解する。
3. 健康レベルに応じた援助を行うために必要な理論と方法を理解する。
4. 障害を受容し、QOLの獲得に向けた看護が理解できる。
5. 成人期にある患者と、家族看護のあり方、社会資源の活用方法が理解できる。
6. 退院支援を含めた継続看護について学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（アレルギー、膠原病の概要、特徴～治療、症状・疾患の理解）	講義	
第2回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（感染症の症状・検査、診断～症状看護、感染予防）	講義	
第3回	リハビリテーションの考え方と回復期患者の看護援助の特徴 脳・神経疾患のある患者の看護（脳・神経の構造、機能、検査）	講義	
第4回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（前） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える ・まとめ問題配布	講義 グループワーク①	
第5回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（中） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク②	
第6回	脳・神経疾患のある患者の看護（疾患の理解～患者の看護） 脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（後） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク③	
第7回	血液・造血器疾患のある患者の看護（概要、特徴～治療の種類）	講義	
第8回	血液・造血器疾患のある患者の看護（経過別看護～血友病）	講義	小テスト (1)
第9回	運動器疾患のある患者の看護（運動器の構造、機能、診断と検査、運動器疾患の症状と病態）	講義	
第10回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（前）	講義 グループワーク④	

令和5年度 看護学科 シラバス

第11回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える(中)	講義 グループワーク⑤	
第12回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える(後) ・まとめ問題配布	講義 グループワーク⑥	
第13回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護(内分泌・代謝器官の構造と機能 ～疾患の病態生理)	講義	小テスト (2)
第14回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護(検査、疾患の理解～看護)	講義	
第15回	終講試験(60分)・まとめ解説(30分:試験後に)	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験(60%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習(30%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト2回分(10%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> その他(%)
------	---

教科書	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学(血液・造血器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、内分泌・代謝、脳・神経)
参考図書	*医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 *ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 *看護診断ハンドブック *疾患別看護過程 医学書院
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。教科書を中心に講義を進めていきます。 *まとめ問題や演習の際に抗議のレジュメが必要です。毎回ファイリングして講義に持参すること。 *後期の授業ではグループワークの時間を多くとります。 ➡グループワークでは参加姿勢及び提出物について確認し、評価点に加えます。 *感染の事情により、グループワークが個人ワークになる可能性があります。 *進行に合わせた小テストを2回実施します。それも評価に加えます。 *終講試験後のまとめ解説の時間では、各回のレジュメと各回のまとめ問題での振り返りを行います。各自ファイリングしたものを必ず持参すること。 *事前学習:病態生理の復習をしっかりとってください。 *進行状況により、内容が変更になる場合があります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅲ (セルフマネジメント)	坂本 洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

セルフマネジメントとその概念について理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

1. 循環機能障害のある患者の看護援助を理解する。
2. 呼吸機能障害のある患者の看護援助を理解する。
3. 肝機能障害、消化・吸収障害のある患者の看護援助を理解する。
4. 人々が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	循環機能障害をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞の患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護)	講義	
第2回	2) 心臓カテーテル検査と検査前・中・後の看護	講義	
第3回	3) ペースメーカーを装着する患者の看護	講義	
第4回	4) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	講義・演習	
第5回	5) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	演習	
第6回	呼吸機能障害をもつ患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護)	講義	
第7回	1) 肺がん患者の看護 検査・治療 (外科療法・化学療法・放射線療法)	講義	
第8回	2) 肺がん患者の看護 アセスメント・主な症状に対する看護	講義	
第9回	3) 慢性閉塞性肺疾患の患者の看護	講義	
第10回	4) 在宅酸素療法を行う患者の看護	講義	
第11回	1) 肝機能障害をもつ患者の看護 急性・慢性肝炎患者の看護 (インターフェロン療法)	講義	
第12回	2) 肝機能障害のある患者の看護 (肝硬変) (肝がん) 肝生検	講義	
第13回	消化吸収機能障害のある患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護) 1) 胃・十二指腸潰瘍のある患者の看護	講義	
第14回	2) 胃がんのある患者の看護	講義	
第15回	まとめ (30分 試験前に)・終講試験 (60分)	講義・試験	

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (10 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	*スーベルヒロカワ 成人看護学 慢性期看護論 *医学書院 系統看護学講座 成人看護学 (呼吸器、循環器、消化器)
参考図書	
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論IV (慢性期)	坂本 洋子	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

1. 慢性期看護の考え方とセルフマネジメントを推進する看護援助を理解する。
2. 慢性期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴が理解する。
3. 慢性期にある成人が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。
4. 慢性期の患者への生活指導の事例展開ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と理解	講義	
第2回	糖代謝障害のある患者の看護 1) 糖尿病のある患者の看護 (検査・治療に伴う看護)	講義	
第3回	2) 糖尿病のある患者の看護 (アセスメント、主な症状に対する看護)	講義	
第4回	3) 糖尿病のある患者の看護 (セルフマネジメントとケア) ①食事・運動療法の指導 ②合併症予防と生活指導	講義 グループワーク	
第5回	腎機能障害のある患者の看護 1) 腎不全のある患者の看護 (検査・治療に伴う看護)	講義	
第6回	2) 腎不全のある患者の看護 (アセスメント・主な症状に対する看護)	講義	
第7回	3) 腎不全のある患者の看護 (セルフマネジメントとケア・ 透析患者のセルフマネジメント)	講義 グループワーク	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	■筆記試験 (80 %)	□実技試験 (%)	■演習評価 (20 %)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学（腎・泌尿器、内分泌・代謝、）
参考図書	*スーベルヒロカワ 成人看護学 慢性期看護論
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅴ (ターミナルケア)	小林 さゆり	2	1	後期	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択

◇講義概要

ターミナル期にある対象者や家族の援助方法を習得する。

◇到達目標

1. ターミナル期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。
4. ターミナル期にある人々の治療や緩和ケアを理解し、心理的支援方法を理解する。
5. ターミナル期にある対象とその家族のケアについて理解する。
4. 看取りのケアについて理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ターミナルケア・緩和ケアの考え方 全人的苦痛への理解	講義	
第2回	ターミナル期の身体的苦痛と症状マネジメント	講義	
第3回	予期悲嘆への援助とスピリチュアルペイン	講義	
第4回	スピリチュアルケアと援助的コミュニケーション	講義	
第5回	がん看護 (手術療法・放射線療法・化学療法)	講義	
第6回	ターミナル期にある患者の看護 事例展開	講義 グループワーク	
第7回	看取りのケア	講義 グループワーク	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	■筆記試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %)
	□小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)

教科書	①ヌーベルヒロカワ 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ②医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 ③医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア
参考図書	
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学概論	阪本 由美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

高齢者を取り巻く環境，加齢に伴う身体・心理・社会的変化，高齢者の健康障害とそれに伴う諸問題について理解するとともに，高齢者看護の基本的視点を習得する。

◇到達目標

1. ライフサイクルからみた高齢期の特徴，高齢期の発達課題について説明できる。
2. 加齢に伴う身体面・心理面・社会面での機能・役割の変化を説明できる。
3. わが国の人口高齢化，高齢者の暮らしと健康状態について，その特徴を説明できる。
4. 高齢者に対する保健医療福祉システムについて，概要とサービス内容を理解できる。
5. 高齢者の権利擁護のための制度について理解できる。
6. 老年看護実践における基本的理念を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老いとは・老年期の定義と発達課題	講義	
第2回	高齢社会の統計から見える時代背景と現代の高齢者の保険医療福祉	講義	
第3回	身体の高齢変化とアセスメント	講義	
第4回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	講義	体験学習
第5回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	講義	体験学習
第6回	高齢者の権利擁護	講義	
第7回	老年看護の成り立ち	講義	
第8回	まとめ (30分)・終講試験 (60分)	講義・試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 老年看護学概論
参考図書	
留意事項	*教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 *課題に対するレポートを提出とグループワークがあります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ-1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目的 加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。</p> <p>授業概要 老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。</p>

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。 2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病に関連づけて学び、高齢者の QOL を高める具体的な看護の知識・技術を理解する。 3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。 4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講義	
第2回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講義	
第3回	食事・食生活と看護	講義	
第4回	排泄と清潔の看護	講義	
第5回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講義	
第6回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（発熱）	講義	
第7回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講義	
第8回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講義	
第9回	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄・認知症）	講義	
第10回	治療を必要とする高齢者の看護（健康の維持と介護予防）	講義	
第11回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション） エンドオブライフケア	講義	
第12回	生活・療養の場における看護（在宅高齢者への看護）	講義	
第13回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と医療安全・救命救急）	講義	
第14回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と災害）	講義	
第15回	まとめ 終講テスト	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 90 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ 10 %）
------	---

教科書	系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。 系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論 I - 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年看護に求められるものとは（高齢社会の現状・高齢者医療の現状）	講義	
第2回	高齢者の生理的特徴（老化と寿命・身体的変化）	講義	
第3回	老年症候群の特徴（各器官の生理的変化）	講義	
第4回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第5回	高齢者のフィジカルアセスメント（CGAとは、方法と理解）	講義	
第6回	高齢者のフィジカルアセスメント（方法と注意点）	講義	
第7回	高齢者に起こる脳血管疾患（脳卒中のタイプと病態、治療）	講義	
第8回	高齢者に起こる脳血管疾患（パーキンソン病）うつ・せん妄	講義	
第9回	高齢者にみられる疾患の特徴（循環器）	講義	
第10回	高齢者にみられる疾患の特徴（呼吸器）	講義	
第11回	高齢者にみられる疾患の特徴（運動器）	講義	
第12回	高齢者にみられる疾患の特徴（皮膚疾患、眼科疾患）	講義	
第13回	高齢者にみられる疾患の特徴（耳鼻、歯、口腔・感染症）	講義	
第14回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 100% ） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 演習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input type="checkbox"/> レポート（ % ） <input type="checkbox"/> その他（ % ）
------	---

教科書	系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護 病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	＊教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 ＊授業の進行に合わせた小テストを適宜実施します。＊グループワークは適宜行います。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論 II	坂本 洋子	2	1	後期	必修

◇講義概要

高齢者における看護過程の考え方を理解し、事例を用いて看護過程を展開し、高齢者を多方面から理解・把握し、看護を行うことができる能力を習得する。

◇到達目標

- (1) 高齢者における看護過程の考え方を理解する。
- (2) ゴードンによる機能的健康パターンと NANDAI を用いた老年期の看護過程の展開を理解する。
- (4) 患者事例に対して、個別またはグループで看護過程を展開できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例による看護過程の展開 高齢者における看護過程の概念	講義	
第2回	老年看護過程演習	演習	
第3回	老年看護過程演習	演習	
第4回	老年看護過程演習	演習	
第5回	老年看護過程演習	演習	
第6回	老年看護過程演習	演習	
第7回	老年看護過程演習	演習	
第8回	老年看護過程演習	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (0 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (90 %) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (演習態度 10 %)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
参考図書	生活機能から見た老年看護過程、山田律子他、医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学概論	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

子どもと家族を中心とするケアの理念に基づき、対象の尊厳・尊重を保障することを基本に学ぶ。また、小児各期における成長・発達の特徴を理解し必要な看護について学修する。

◇到達目標

1. 現在の子どもと家族の概況や倫理的視点から、小児看護の役割と課題を学ぶ。
2. 成長・発達の基本的知識とそれを学ぶ意義について学習する。
3. 小児の栄養の特徴と看護について学ぶ。
4. 各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学習する。
5. 家族の特徴と家族アセスメントの基本的知識を学習する。
6. 子どもと家族を取り巻く福祉・保健・医療の現状について学習する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 小児看護の特徴と理念 A 小児看護の目ざすところ B 小児と家族の諸統計 C 小児看護の変遷 D 小児看護における倫理 E 小児看護の課題	講義	
第2回	第2章 子どもの成長・発達 A 成長・発達とは B 成長・発達の進み方 C 成長・発達に影響する因子 D 成長の評価 E 発達の評価	講義	
第3回	第3章 新生児・乳児 A 新生児 ① A 新生児 ② B 乳児 ① B 乳児 ②	講義	
第4回	第4章 幼児・学童 A 幼児 ① A 幼児 ② B 学童	講義	
第5回	第5章 思春期・青年期の子ども	講義	
第6回	第6章 家族の特徴とアセスメント	講義	
第7回	第7章 子どもと家族を取り巻く社会 A 児童福祉 B 母子保健 C 医療費の支援 D 予防接種 E 学校保健 F 食育 G 特別支援教育 H 臓器移植法	講義	
第8回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	■筆記試験 (95 %) □実技試験 () □演習評価 ()
	□小テスト () □レポート () ■その他 (授業態度 5 %)

令和4年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	国民衛生の動向(2021～2022)
留意事項	授業計画を参考に予習・復習をすること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学方法論Ⅰー1	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

小児看護学概論の内容をふまえ、病気・障害を持つ子どもと家族を取り巻く環境や生活の場、疾病の経過の特徴を理解し、子どものアセスメント、症状別看護、検査、処置の基本的知識・技術について学習する。

◇到達目標

1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護を理解する。
2. 子どもの基本的特性を理解し、症状のアセスメントと看護を学習する。
3. 子どもに特有な検査・処置の基本的知識・技術を学習する。
4. 障害児看護および子どもの虐待と看護について学習する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護①	講義	
第2回	第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護② 第3章 子どもにおける疾病の経過と看護 ①	講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護 ②	講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント ①	講義	
第5回	第4章 子どものアセスメント ②	講義	
第6回	第4章 子どものアセスメント ③	講義	
第7回	第5章 症状を示す子どもの看護 ①	講義	
第8回	第5章 症状を示す子どもの看護 ②	講義	
第9回	第5章 症状を示す子どもの看護 ③	講義	
第10回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 ①	講義	
第11回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 ②	講義	
第12回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 ③	講義	
第13回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 ④ 第7章 障害のある子どもと家族の看護 ①	講義	
第14回	第7章 障害のある子どもと家族の看護 ②	講義	
第14回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (95%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト () <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度 5%)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	
留意事項	授業計画を参考に予習・復習をする。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論 I-2	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

既習の講義で学習した小児特有の疾患の病態・症状・診断・治療および事故・外傷に関する基礎的知識をふまえて、必要な看護を理解し根拠に基づいた看護の実践的な方法を習得する。

◇到達目標

1. 小児特有の疾患および事故・外傷に関して必要な看護を学習する。
2. 根拠に基づいた看護の実践的な方法を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護 ダウン症候群の子どもの看護 第2章 新生児の看護 低出生体重児の看護 ①	講義	
第2回	低出生体重児の看護 ②、新生児仮死、高ビリルビン血症の新生児の看護	講義	
第3回	第3章 代謝疾患と看護 看護総論 1型糖尿病をもつ子どもの看護	講義	
第4回	第4章 内分泌疾患と看護 看護総論、下垂体疾患、先天性副腎過形成、甲状腺疾患の子どもの看護	講義	
第5回	第5章 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 看護総論、食物アレルギーの子どもの看護、気管支喘息の子どもの看護①	講義	
第6回	気管支喘息の子どもの看護 ② 第6章 感染症と看護 看護総論、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎等	講義	
第7回	第7章 呼吸器疾患と看護 看護総論、かぜ症候群、肺炎の子どもの看護 第8章 循環器疾患と看護 看護総論、ファロー四徴症の子どもの看護 ①	講義	
第8回	ファロー四徴症の子どもの看護 ②、川崎病の子どもの看護 第9章 消化器疾患と看護 看護総論、唇裂・口蓋裂、食道閉鎖、肥厚性幽門狭窄症、鎖肛、胆道閉鎖症、腸重積症等	講義	
第9回	第10章 血液・造血器疾患と看護 出血傾向、輸血療法、再生不良性貧血、血友病をもつ子どもの看護 第11章 悪性新生物と看護 看護総論、白血病の子どもの看護 ①	講義	
第10回	白血病の子どもの看護 ②、神経芽腫の子どもの看護	講義	
第11回	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 看護総論、ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎の看護、尿路感染症	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第12回	第13章 神経疾患と看護 看護総論、痙攣、脳性麻痺、水頭症・二分脊椎の子どもの看護等 第14章 運動器疾患と看護 看護総論、発育性股関節形成不全、骨折した子どもの看護等	講義	
第13回	第15章 皮膚疾患と看護 母斑、アトピー性皮膚炎の子どもの看護 第16章 眼疾患と看護 眼科的検査、斜視の手術を受ける子どもの看護 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護 看護総論、中耳炎の子どもの看護、扁桃摘出術を受ける子どもの看護	講義	
第14回	第18章 精神疾患と看護 看護総論、神経症、注意欠如・多動症および自閉スペクトラム症の子どもの看護等 第19章 事故・外傷と看護 看護総論、頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症	講義	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験 講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (95 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト () <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度 5 %)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院
参考図書	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社
留意事項	授業計画を参考に、予習・復習をしておくこと。 レポートについては、初講時にオリエンテーション

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論 II	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修

◇講義概要

小児の成長・発達を理解した上で、健康障害をもつ子どもと家族が健全な日常生活が送れるように、小児の特有な病態・生理を理解し看護援助と具体的援助技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 小児各期の特有な疾患と看護の知識・技術を理解する。
- (2) 小児看護師の役割を学び、小児の発達に応じた看護援助の提供方法と危険防止について理解する。
- (4) 小児期に特有な疾患を有する患者の看護を展開できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	プレパレーションとディストラクション 虐待早期発見・危険防止 チャイルド・ビジョン	講義	
第2回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイング)	演習	
第3回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイング) KYTトレーニング	演習	
第4回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第5回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第6回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第7回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第8回	終講試験 (60分)・まとめ (30分 試験後に)・	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (30 %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論 小児看護学[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 小児臨床看護各論 小児看護学[1] 医学書院
参考図書	小児の発達と看護 小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 ナーシング・グラフィカ
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護学概論	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

母性看護の現況や動向を知り、機能と役割を理解することにより母性看護活動に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
3. 女性のライフステージ各期における健康と健康問題について理解できる。
4. リプロダクティブヘルス・ライツの概念が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	母性とは①	講義	
第2回	母性とは②	講義	
第3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①	講義	
第4回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状②	講義	
第5回	母子を取り巻く環境①	グループワーク	
第6回	母子を取り巻く環境②	グループワーク	
第7回	グループ発表①	ディスカッション	
第8回	グループ発表②	ディスカッション	
第9回	母性看護の対象理解	講義	
第10回	女性のライフステージ各期における看護（思春期）	講義	
第11回	女性のライフステージ各期における看護（成熟期）	講義	
第12回	女性のライフステージ各期における看護（更年期～老年期）	講義	
第13回	母性看護に必要な看護技術	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（グループワーク %）
------	---

教科書	系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習： 講義の前に必要な場合は提示します

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 I - 1	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族が正常な経過をたどれるように援助を行うための基本的な能力を養う</p> <p>異常妊娠についての病態や看護のポイントについて学習する。</p>
--

◇到達目標

<p>1) 妊娠期の母体の変化と心理・社会的特性、胎児の成長発達、マイナートラブルやハイリスク妊娠および異常について理解できる。</p> <p>2) 妊娠期の看護について理解できる。</p> <p>3) 妊娠期の異常時の看護について理解できる。</p> <p>4) 母子関係確立および家族役割構築のための看護について理解できる。</p>
<p>(1) 妊娠・分娩・産褥期に生ずる母体の生理的变化と特徴、胎児期の成長・発達および新生児期における胎外生活適応過程において生ずる生理的变化を理解する。</p> <p>(2) 周産期における母性およびその家族の心理社会的側面を理解する。</p> <p>(3) 周産期における正常からの逸脱に対する看護を理解する。</p> <p>(4) 母性看護に特有の看護技術を習得する。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	妊娠期の身体的特性	講義	
第2回	妊娠期の心理・社会的特性	講義	
第3回	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	講義	
第4回	妊婦への保健指導 (1) 食生活	講義	
第5回	妊婦への保健指導 (2) マイナートラブル	講義	
第6回	妊婦への保健指導 グループワーク	グループワーク	
第7回	妊婦への保健指導 グループワーク 発表	ディスカッション	
第8回	妊娠期の異常 ハイリスク妊娠・感染症	講義	
第9回	まとめ	講義	
第10回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験+まとめ	
第1回	ハイリスク妊娠	講義	
第2回	妊婦の異常 妊婦と胎児にみられる異常	講義	
第3回	産婦の異常 産婦にみられる異常	講義	
第4回	褥婦の異常 褥婦にみられる異常	講義	
第5回	新生児の異常 新生児にみられる異常	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
参考図書	
留意事項	<p>事前学習 講義の前に必要な場合は掲示します。</p> <p>妊娠の成立、妊娠中の母児の生理について基礎知識を身につけておくこと</p>

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 I-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美・矢追 裕子	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>教育目的 分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。</p> <p>授業概要 妊産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた、看護の役割を習得する。</p>
--

◇到達目標

<p>1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。</p> <p>2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。</p> <p>3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。</p> <p>4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。</p> <p>5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	分娩期における看護（分娩の要素分娩経過 CTGの読み方 回旋）	講義	稲葉 由美
第2回	分娩期における看護（分娩経過のアセスメント）	講義	稲葉 由美
第3回	分娩期における看護（産婦と家族への援助・分娩時の看護の実際）	講義	稲葉 由美
第4回	分娩の異常と看護（陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 帝王切開 胎児機能不全） 分娩時異常出血（子宮破裂 頸管裂傷 弛緩出血 子宮内反）	講義	稲葉 由美
第5回	新生児の生理 新生児の健康状態のアセスメント	講義	矢追 裕子
第6回	新生児の出生後から退院までの看護	講義	矢追 裕子
第7回	新生児の異常と看護	講義	矢追 裕子
第8回	産褥期における看護（産褥経過 身体的変化 心理・社会的変化）	講義	矢追 裕子
第9回	産褥期における看護（褥婦のアセスメント 進行性変化 退行性変化）	講義	矢追 裕子
第10回	産褥期における看護（褥婦と家族の看護 乳房ケア 家族関係再構築への看護 施設退院後の看護）	講義	矢追 裕子
第11回	産褥期の異常の看護 子宮復古不全 産褥熱 感染症	講義	矢追 裕子
第12回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第13回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第14回	精神障害合併妊婦と家族の看護	講義	稲葉 由美
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験+まとめ	稲葉 由美 矢追 裕子

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (90 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (10 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術
参考図書	メディックメディア 病気が見える vol10 産科 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 (第3版)
留意事項	事前学習 教科書を読んでおく。家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳、出産された方は子どもさんの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論 II (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%) ■実技試験 (40%) ■演習評価 (20%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) ■レポート (40%) □その他 (%)

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護学概論	外部講師(非公開)	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

精神保健看護をとりまく動向を踏まえ、精神保健看護の対象となる人々の理解と援助に必要な理論の修得を目指す。

◇到達目標

- (1) 心の健康とその考え方を理解する。
- (2) 歴史や社会の動向を踏まえ精神保健福祉と精神看護の理念を理解する。
- (3) 精神分析理論から心の問題を捉え、適応・危機・ストレス理論を理解する。
- (4) 人々のライフサイクルを通して発達課題や社会・生活環境における問題を理解する。
- (5) 精神保健医療福祉をめぐる法制度からの患者支援の方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	科目オリエンテーション 精神看護の目的と意義・精神看護の役割を理解する (DVD 視聴)	講義・DVD	
第2回	精神看護の役割を理解する (DVD 視聴)	講義・DVD	
第3回	人間の心の諸活動、精神力動論①	講義・演習	
第4回	精神力動論②、エリクソンの漸成的発達図式について	講義・演習	
第5回	対象関係論、自己心理学、ほか心の動きを理解する諸理論	講義・演習	
第6回	ライフサイクルと心の発達 エリクソンの漸成的発達図式について	講義・演習	
第7回	ストレス・危機理論の概要 具体的な危機介入の方法について	講義・演習	
第8回	家族と精神保健 樹形図の書き方 家族システム論について	講義・演習	
第9回	集団力動論 クラスでグループダイナミクスを体感する	講義・演習	
第10回	精神保健福祉医療の沿革・歴史	講義・演習	
第11回	精神医療・看護と倫理 倫理的問題についての事例検討を含む	講義・演習	
第12回	精神保健と関係法規 精神保健福祉法と障害者総合支援法を中心に	講義・演習	
第13回	地域精神医療保健 地域で生活する精神障害者の実際	講義 DVD 学習	
第14回	リエゾン精神看護とナースのメンタルヘルス	講義・演習	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	系統看護学講座 精神看護の基礎 (精神看護学①) 医学書院
参考図書	なし
留意事項	なし

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論 I - 1	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を習得する。

◇到達目標

- 到達目標 (1) 精神に健康の障がいをもつ対象者の治療環境を理解する。
 (2) 精神に健康の障がいをもつ対象者の理解と関わり方を理解する。
 (3) 精神保健医療福祉をめぐる法制度からの患者支援の方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神看護学の基本 精神障害者の現状	講義	
第2回	精神の健康と不健康	講義	
第3回	心のはたらきとしくみ 人格形成	講義	
第4回	人間関係についてのシステム論	講義	
第5回	精神療法の基本	講義	
第6回	精神看護における「症状のとらえ方」の理解	講義	
第7回	精神機能の障害と精神症状	講義	
第8回	精神障害の診断と分類	講義	
第9回	精神科における治療と看護①	講義	
第10回	精神科における治療と看護②	講義	
第11回	精神科における治療と看護③	講義	
第12回	精神障害と治療の歴史	講義	
第13回	精神障害と社会学	講義	
第14回	精神障害と法制度	講義	
第15回	まとめ(30分)終講試験 (60分)	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	精神看護の基礎 (精神看護学①)、精神看護の展開 (精神看護学②) 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコーダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医歯薬出版
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論1-2	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修

◇講義概要

<p>精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を修得する。</p> <p>1. 精神障がいや精神疾患をもつ人のかかわりのなかで理解するとともに、生活を支える社会制度について理解を深める。</p> <p>2. 精神看護を展開するために必要な基礎的知識を学び、精神看護の基本概念を理解する。</p>
--

◇到達目標

<p>(1) 精神障がいや精神疾患をもつ人をケアの人間関係のなかで理解できる。</p> <p>(2) 精神障がいや精神疾患をもつ人の治療的環境と看護の役割について理解できる。</p> <p>(3) 地域生活を支える社会制度・精神保健・精神看護について理解できる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神障害をもつ人のケアの基本的な方法	講義	
第2回	人間関係をアセスメント プロセスレコードの活用	講義	
第3回	患者— 看護師関係でおきる現象のしくみと対処方法	講義	
第4回	患者にとっての回復（リカバリー）と支援	講義	
第5回	地域におけるケアの方法と支援の実際	講義	
第6回	学校・職場におけるメンタルヘルス	講義	
第7回	入院形態による精神科への入院の仕方	講義	
第8回	精神科病院での看護の課題と役割	講義	
第9回	退院に向けての支援と実際	講義	
第10回	精神科における身体のケアの実際	講義	
第11回	身体合併症とその看護	講義	
第12回	リスクマネジメント 緊急対応	講義	
第13回	リエゾン看護師の役割と看護 災害時の心のケア	講義	
第14回	看護師における感情労働とメンタルヘルス	講義	
第15回	まとめ(30分)・終講試験(60分)	試験・まとめ	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	精神看護の基礎（精神看護学①）、精神看護の展開（精神看護学②） 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコーダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医師薬出版
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人に対する看護過程の展開方法を学習する。
精神科看護技術の実際を学習する。

◇到達目標

主要な精神疾患・症状を有する患者の事例を通して、対象の健康レベルをアセスメントし必要な看護ケアの方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護視点過程 看護過程記録－相互作用を記録し振り返る方法 プロセスコードの活用 コミュニケーションスキル	講義	
第2回	ゴートンのアセスメントの枠組み 事例を通して情報の整理および情報の解釈により 健康逸脱の状況を見出す過程を学ぶ	講義	
第3回	アセスメント 情報を解釈する－アセスメントの視点 精神看護における看護過程	講義	
第4回	アセスメント結果のまとめ 精神看護のアセスメント	意見交換	
第5回	アセスメント結果の統合 看護問題を推論するまでの過程と方法	意見交換	
第6回	看護問題の抽出 看護計画の立案	意見交換	
第7回	看護過程まとめ 看護の実施と評価 SOAP 記録	意見交換	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (50 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	江川隆子 監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針」 照林社 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
参考図書	全体的視点にもとづく精神看護過程 白石喜美子 武政 奈保子 医歯薬出版会社
留意事項	

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療安全管理	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修

◇講義概要

医療・看護行為、医療機器、医薬品、患者に存在する危険を認識する能力を養い、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきことを」またその根拠を学ぶことで医療安全対策の基礎的知識を習得する。
--

◇到達目標

<p>(1) あらゆる場面・人・物に潜む危険について考えることができる。</p> <p>(2) 医療安全の視点から、看護基礎技術の根拠・理由を理解することができる。</p> <p>(3) 医療安全におけるコミュニケーションの重要性を理解することができる。</p> <p>(4) 医療安全対策の組織的な取り組みについて知ることができる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	医療安全を学ぶ意義 医療事故と看護業務	講義	
第2回	診療の補助の事故防止Ⅰ（業務の特性からみる） ①注射業務と自己防止	講義	
第3回	②注射業務に用いる機器での事故防止	講義	
第4回	③輸血業務と事故防止	講義	
第5回	④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養業務と事故防止	講義	
第6回	診療の補助の事故防止Ⅱ チューブ管理と事故防止	講義	
第7回	療養上の世話の事故防止 ①転倒・転落事故防止	講義	
第8回	②摂食中の窒息・嚥下事故防止 ③異食事故防止 ③入浴中の事故防止	講義	
第9回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義	
第10回	事故防止のためのコミュニケーション	講義	
第11回	看護師の労働安全（職業感染・抗がん剤・放射線被曝 他）	講義	
第12回	組織としての医療安全対策 事故報告とヒヤリ・ハット報告	講義	
第13回	システムとしての事故防止 重大事故発生時の対応	講義	
第14回	医療安全対策の国内外の潮流 医療安全教育	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験（ 90 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ 10 %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院
参考図書	ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版 医療安全ワークブック 川村治子 著 医学書院
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
チーム医療論	坂本 洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

保健医療福祉分野におけるチームアプローチの必要性を理解し、各専門職にお役割や機能の特徴を知り、理解を深めるとともに、連携の在り方や看護職者の役割・責任に対する考え方を明確にすることを目的とする。

◇到達目標

1. 保健医療福祉分野の各専門職者の役割や機能の特徴を説明できる。
2. チームアプローチの必要性を記述することができる。
3. チーム医療における看護職者の役割や責任を自分の言葉で説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	チーム医療の必要性とその発展	講義	
第2回	チームアプローチにおける助産師の役割と機能	講義	
第3回	チームアプローチにおける保健師の役割と機能	講義	
第4回	チームアプローチにおける看護師の役割と機能	講義	
第5回	チームアプローチにおける医師の役割と機能	講義	
第6回	チームアプローチにおける薬剤師の役割と機能	講義	
第7回	チームアプローチにおける理学療法士の役割と機能	講義	
第8回	チームアプローチにおける作業療法士の役割と機能	講義	
第9回	チームアプローチにおける言語聴覚士の役割と機能	講義	
第10回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割と機能	講義	
第11回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える①	演習	
第12回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える②	演習	
第13回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える③	演習	
第14回	事例に基づくチームアプローチ①	演習	
第15回	事例に基づくチームアプローチ②	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 (%)	<input type="checkbox"/> 実技試験 (%)	<input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (20 %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%)	<input checked="" type="checkbox"/> レポート (80 %)	<input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	
参考図書	
留意事項	演習評価はグループワーク、発表時欠席すると点数は0点とします。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
国際看護	外部講師(非公開)	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>(1) 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、異文化を考慮した看護について理解する。</p> <p>(2) 看護の専門職の役割として、在日外国人の健康上の問題点と課題について理解する。</p>
--

◇到達目標

<p>1. 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、必要性を述べるができる。</p> <p>2. 国際看護の実践を知り、必要な知識・技能・能力は何かを述べるができる。</p> <p>3. 在日外国人の健康問題とその支援について述べるができる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当	備考
第1回	国際看護とは 世界の健康問題の現状	講義 グループワーク		
第2回	グローバルヘルスの歴史の変遷 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義 グループワーク		
第3回	異文化を考慮した看護 レイニンガーのサンライズイネーブラーモデル	講義 グループワーク		
第4回	南アジアの国バングラディッシュについて ・気候、風土、宗教について知る ・実際に取り組まれていることを知る ・健康課題として考えられること	オンライン講義 グループワーク		
第5回	バングラディッシュにおける活動の実際 ・異国での活動で苦労したこと ・相手に理解してもらうために工夫したこと	オンライン講義		
第6回	アメリカにおける地域看護の実際	講義 オンライン中継		
第7回	国際協力の課題 人間の安全保障	講義 グループワーク		
第8回	在日外国人の健康問題とその支援 我が国に在留する外国人の現状 共に働き暮らす時代へ	講義 グループワーク		

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	国際化と社会 メディカ出版
参考図書	講師作成の資料
留意事項	各授業、振り返りシートを記入

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
災害看護	外部講師(非公開)	2	1	後期	必修

◇講義概要

災害医療および災害支援に際して医療従事者に必要な基礎的知識を習得する。

◇到達目標

- ①災害及び災害色湯の基礎を学ぶ
- ②災害各期における医療・看護のニーズの特徴と支援の在り方を学ぶ
- ③災害が人々に及ぼす社会・経済的および心理的影響と支援の在り方を学ぶ

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	1) 災害看護とは：災害看護の定義災害と倫理	講義	
第2回	2) 災害医療に関する国の再作と法律；	講義	
第3回	3) 災害の種類と災害サイクル；災害サイクル；災害の種類と被害・疾病の種類	講義	
第4回	4) 災害の種類と災害サイクル；災害関連死・災害サイクル	講義	
第5回	5)災害時に必要な医療・看護技術；体系的対応の基本、トリアージ、応急処置・治療、移送・搬送	講義	
第6回	6) トリアージ実技	演習	
第7回	7) 災害初期から中長期における看護活動；初動時、医療救護所	講義	
第8回	8) 危機管理；減災防災マネジメント	講義	
第9回	9) 災害医療と国際看護；国際看護とは 日本における国際看護 海外における災害看護と国際看護活動	講義	
第10回	10) 災害初期から中長期における看護活動； 避難所、仮設住宅、自宅避難者、復興期	講義	
第11回	11) 配慮を必要とする人への支援と看護	講義	
第12回	12) 被災者と支援者の心理理解と援助	実技	
第13回	13) 災害看護 演習	GW	
第14回	14) 災害看護 演習	GW	
第15回	15) 終講試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記期試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
教科書	ナシグ・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護管理	坂本 洋子	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護のマネジメントは、ヒト・モノ・カネ・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。また看護は、医療・福祉の現場において24時間を通じて、健康に障害を持った対象者に適切な看護が提供され、医療チームの中で他職種との協働で業務を行う。看護職者が、組織の一員として、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について理解するとともに複数の対象者のマネジメントの方法を学び、総合的な知識をさらに看護管理へと発展させる統合技術を学ぶ。

◇到達目標

1. 看護職者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明ができ、看護の直面する問題と課題について理解する。
2. 医療チームの各役割が理解でき、看護管理者が担う役割や原理・原則が説明できる。
3. 看護を取り巻く諸制度を理解し、看護サービスのマネジメント能力を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護管理の基本となるもの ①看護管理とは何か ②看護管理の基礎となる知識 ③看護管理のプロセス ④他職種との連携・協働	講義	
第2回	看護師の仕事とその管理 ①組織とは・組織目標 ②看護と経営 ③ヒトを育て生かす	講義 グループワーク	
第3回	看護の仕事とその管理 ①資源とその活用 ②看護の提供システム	講義 グループワーク	
第4回	看護の質向上 ①看護管理と倫理 ②医療・看護の質評価	講義	
第5回	看護管理に求められる能力 ①セルフマネジメントの方法 ②対人コミュニケーションスキル	講義	
第6回	看護管理に求められる能力 ①組織におけるリーダーシップとマネジメント ②管理能力の基盤となる理論	講義	
第7回	看護職とキャリア ①社会人になる ②生涯学習 ③看護職に関する法律 ④看護職のキャリア	講義	
第8回	終講試験(45分)	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 第4版第4刷
参考図書	
留意事項	問題意識を持って自主的に学ぶ姿勢を期待する。

令和4年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護学実習 I	1	1	後期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		5日間	40時間

◇講義概要

看護を必要としている人々の様子やそれを支えている人々の動きを観察し、対象とのかかわりを通して看護の基礎を学びます。また、治療・療養を提供する病院の機能と役割について知り、看護の役割を理解すると共に、基本的な倫理観と態度を身につけます。

◇到達目標

1. 看護学生としての学習態度と、基本的な倫理観・態度を身に付けることができる。
2. 病院の役割と機能について知り、病院における患者の生活環境がわかる。
3. 看護におけるコミュニケーションの必要性がわかる。
4. 患者との関わりから、日常生活の援助の必要性がわかり援助計画が立案できる
5. 既習の技術を用いて必要な日常生活の援助を安全・安楽に実施できる。
6. チーム医療における活動の実際を知り、チームの一員としての看護者の役割と他職種との連携・協働について考えることができる。

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 事前学習	・実習要項を用い実習の説明 ・実習室にて1Gが1ベッド使用し、設定された課題を行う
2日目	【病棟】 病棟オリエンテーション 病床環境の見学	・病棟での見学・実習 ・カンファレンス
3日目	【病棟】 受け持ち患者紹介 指導書の援助の見学 情報収集	・病棟での実習 ・カンファレンス
4日目	【病棟】 情報収集 指導書の援助の見学	・病棟での実習 ・カンファレンス
5日目	【病棟】 受け持ち患者の援助	・病棟での実習 ・最終カンファレンス
次の実習へつなぐ学びの時間① (実習時間外)	【学内実習】 各グループで病院実習での学びをまとめる テーマに沿ってディスカッション	グループワーク ・各自の学びをグループ内で共有するために、基礎看護学実習 I での学びをグループでディスカッションし、文章にまとめる
次の実習へつなぐ学びの時間② (実習時間外)	【学内実習】 各グループで病院実習での学びをまとめる 発表会の準備	グループワーク ・グループでの学びを発表するための効果的なプレゼンテーション方法を考え、スライド等を作成する ・発表会の準備

令和4年度 看護学科 シラバス

次の実習へ つなぐ学びの 時間③ (実習時間外)	【学内実習】学習発表会	・講堂で発表会を行う
-----------------------------------	-------------	------------

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	<p>基礎看護学実習 I を受講するには、実習前に以下の全て修得している必要があります。</p> <p>・看護の概念 ・基礎看護学技術 I ～IV ・基礎看護技術演習 I ・基礎看護技術演習 II</p>
------	--

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護学実習Ⅱ	2	2	後期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00～16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

この実習では、援助的人間関係をとおして看護の対象の健康問題を総合的に把握します。得た情報を基に看護過程を展開し、看護計画に基づいた看護の実践を学びます。

◇到達目標

1. 看護実践に必要な情報を収集し、対象のアセスメントをすることができる。
2. 日常生活における看護上の問題点の抽出ができ、看護計画を立案できる。
3. 看護計画に基づいて看護援助ができる。
4. 看護目標に対し、実施した看護の評価・修正ができる。
5. 看護チームの一員であることを自覚し、責任ある行動がとれる。
6. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	・実習要項を用い実習の説明 ・実習室にて1Gが1ベッド使用し、設定された課題の技術練習を行う
2日目	病棟オリエンテーション 情報収集 (VS測定を含む) 情報の分類・整理	【病棟実習】 ・カンファレンス：個人目標の発表・本日の気づきや学びの共有
3日目	援助 (見学・一部介助) 情報収集・情報の分類 (アセスメント用紙記入)	【病棟実習】 ・カンファレンス
4日目	援助 (見学・一部介助) 情報収集・情報の分類 (アセスメント用紙記入)	【病棟実習】 ・カンファレンス
5日目	情報収集・情報の分類 (アセスメント用紙記入) 看護援助実施・評価	【病棟実習】 ・カンファレンス
6日目	【学内実習】 看護問題の明確化 看護計画を立案	・情報用紙、アセスメント用紙をもとに受け持ち患者の状況を理解とともに、基本的欲求の未充足と考えられる構成要素を優先的にアセスメントし、指導を受ける。 【看護実習室】 ・受け持ち患者の看護援助技術の演習 (scenario 使用)
7日目	看護計画発表 指導計画の発表	【病棟実習】 ・カンファレンス：看護計画の発表
8日目	計画の実施・評価 (追加・修正) 経過記録の記載	【病棟実習】 ・カンファレンス
9日目	計画の実施・評価 (追加・修正) 経過記録の記載	【病棟実習】 ・カンファレンス

令和5年度 看護学科 シラバス

10 日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	【病棟実習】 ・最終カンファレンス
次の実習につなぐ学びの時間① (実習時間外)	【学内実習】 実習の学びまとめ	グループワーク ・各自の学びをグループ内で共有するために、基礎看護学実習Ⅰでの学びをグループでディスカッションしてまとめる
次の実習につなぐ学びの時間② (実習時間外)	【学内実習】 実習の学びまとめ 発表会準備	グループワーク ・グループでの学びを発表するための効果的なプレゼンテーション方法を考え、スライド等を作成する
次の実習につなぐ学びの時間③ (実習時間外)	【学内実習】 実習の学び発表会	【講堂】実習グループ毎に学びの発表 ・スライドを使用

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	基礎看護学実習Ⅱを受講するには、実習前に以下の全てを修得している必要があります。 ・看護の概念 ・看護の展開 ・基礎看護学技術Ⅰ～Ⅳ ・基礎看護技術演習Ⅰ ・基礎看護技術演習Ⅱ
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
地域・在宅看護論実習	3	2	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター実習、市保健福祉センター（健康増進課）での実習をとうして、地域の中で生活・療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の場・機能・役割の実際について学びます。

◇到達目標

1. 地域保健活動の概要とシステムについて知る。
2. 地域の特性を知り、それをふまえた健康教育の実際を知る。
3. 地域における保健医療福祉の連携と実際の取り組みについて知る。
4. 地域の生活環境や健康状態を知り、プライマリーヘルスケアの実際について知る。

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 必要な知識の確認・技術の確認	・実習要項を用い実習の説明 ・実習施設ごとのオリエンテーション ・事前学習の確認
2日目	訪問看護ステーション実習（あさがお・さわやか・佐保・ひまわり奈良・ひまわり秋篠）	訪問看護ステーション実習【4日間】 カンファレンス
3日目	オリエンテーション 訪問看護ステーション担当者との同行訪問をする。	
4日目	訪問先で、担当者の援助を見学し、指導のもと実行可能な援助があれば介助する。	
5日目	担当者会議などの機会があれば見学する。 カンファレンス	
次の実習につなげる時間 (実習時間外)	【学内実習】 記録の整理・実習の学びのまとめ	・実習の学びの共有
6日目	市保健福祉センター（健康増進課）実習 【奈良市健康医療部保健所保健衛生課・桜井市保健福祉センター】 ・オリエンテーション ・保健所・保健センターで講義や事業の見学実習をする。 ・実習場所の担当者と共に、参加可能な事業があれば参加する。	市保健福祉センター（健康増進課）実習【1日間】 カンファレンス
7日目	地域包括支援センター実習【北部包括支援センター】 ・オリエンテーション	地域包括支援センター実習【4日間】 ・事業見学

令和6年度 看護学科 シラバス

8日目	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加し見学実習する。 ・実習場所の担当者と同行訪問し、実習する。 ・サービス調整会議等の機会があれば見学実習する ・カンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス
9日目		
10日目		
学びを深める 時間 (実習時間外)	【学内実習】 記録の整理・実習の学びのまとめ 演習・発表	保健センター、地域包括支援センターでの学びから地域で暮らす人々の暮らしと健康を守るために利用できるフォーマルサービスについてまとめ、どのような支援が必要であるのか考える。

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	地域・在宅看護論実習の受講には、実習前に以下の科目のすべてを修得している必要がある。 ・地域看護論・地域看護学方法論・在宅看護概論・在宅看護方法論Ⅰ-1・在宅看護方法論Ⅰ-2・在宅看護方法論Ⅱ
------	---

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学実習 I	3	1	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		5日間	40時間

◇講義概要

手術を受ける患者を受け持ち、急性期・周手術期の対象の看護について学習する。手術前に必要な身体的・精神的準備、不安の軽減、手術による身体的・精神的・社会的影響を理解する。また、術後の状態を把握し、回復過程に応じた日常生活援助の実際の経験から、急性期・周手術期における看護を学ぶ。

◇到達目標

1. 急激な健康破綻をきたした対象の身体的・心理的・社会的・霊的側面の相互に及ぼす影響について理解し、特徴をとらえることができる
2. 対象の病態および身体症状の変化に応じ、問題点を明確にすることができる
3. 問題点ごとに対象の状態に応じた援助計画を立案し、実践、評価ができる
4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割が認識できる

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用い実習の説明 実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題を行う
2日目	病棟オリエンテーション 情報収集 情報の分類・整理	病棟実習 カンファレンス
3日目	援助（見学・一部介助） 手術を受ける患者の援助（術前・中・後）の見学 周手術期の看護問題の明確化①	病棟実習 カンファレンス
4日目	情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価 看護問題の明確化②	病棟実習 カンファレンス
4日目	援助 看護計画実施・評価	病棟実習 カンファレンス
5日目	手術室見学を行い、術中の対象者の状態を知る	手術室見学 カンファレンス
理解を深める 時間① (実習時間外)	【学内実習】 援助の振り返り	学内 個人ワーク・グループワーク
理解を深める 時間② (実習時間外)	【学内実習】 学習発表会	学内 発表会

評価方法	評価表参照
------	-------

令和6年度 看護学科 シラバス

留意事項	<p>成人看護学実習Ⅰの受講には、実習前に以下の科目をすべて修得している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">・成人看護学概論・成人看護学方法論Ⅰ-1・成人看護学方法論Ⅰ-2・成人看護学方法論Ⅱ-1・成人看護学方法論Ⅱ-2・成人看護学方法論Ⅲ <p>対象者の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助が出来るようにすすめます。カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。</p>
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学実習Ⅱ	3	2	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00～16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

何らかの障害により生活の再構築を必要とする対象を理解し、障害の受容と生活の自立への援助の方法を学ぶ。

◇到達目標

1. 回復期にある対象の身体的・心理的・社会的・霊的側面の相互に及ぼす影響について理解し、特徴をとらえることができる
2. 回復の過程をたどる対象の特徴や個別性をふまえ、問題点を明確にすることができる
3. 回復の過程をたどる対象の特徴や個別性をふまえた看護計画・実施・評価ができる
4. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への効果的な指導や援助を考えることができる
5. 保健医療福祉チームの役割と連携の必要性を学び、チームの一員としての役割を理解することができる

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用い実習の説明 実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題の技術練習を行う
2日目	病棟オリエンテーション 情報収集 (VS測定を含む) 情報の分類・整理	・病棟実習 ・カンファレンス
3日目	援助 (見学・一部介助) 情報収集・情報の分類 (アセスメント用紙記入)	・病棟実習 ・カンファレンス
4日目	情報収集・情報の分類 (アセスメント用紙記入) 看護援助実施・評価	・病棟での実習 ・カンファレンス
5日目	【学内実習】 看護問題の明確化 看護計画を立案	学内 ・情報用紙、アセスメント用紙をもとに受け持ち患者の状況を理解とともに、基本的欲求の未充足と考えられる構成要素を優先的にアセスメントし、指導を受ける。 【看護実習室】 ・受け持ち患者の看護援助技術の演習 (scenario 使用)
6日目	看護計画発表 指導計画の発表	・病棟での実習 ・カンファレンス：看護計画の発表
7日目	計画の実施・評価 (追加・修正) 経過記録の記載	・病棟での実習 ・カンファレンス
8日目	計画の実施・評価 (追加・修正) 経過記録の記載	・病棟での実習 ・カンファレンス
9日目	計画の実施・評価 (追加・修正)	・病棟での実習

令和6年度 看護学科 シラバス

	経過記録の記載	・カンファレンス
10日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	・病棟での実習 ・最終カンファレンス
学びを深める 時間① (実習時間外)	【学内実習】 ケースのまとめ	学内 ・社会復帰への効果的な指導や援助を考える ・継続看護の必要性を考える 個人ワーク・グループワーク
学びを深める 時間② (実習時間外)	【学内実習】 ケースのまとめ発表会	学内 発表会

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	<p>成人看護学実習Ⅱの受講には、実習前に以下の科目をすべて修得している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学概論 ・成人看護学方法論Ⅰ-1 ・成人看護学方法論Ⅰ-2 ・成人看護学方法論Ⅱ-1 ・成人看護学方法論Ⅱ-2 ・成人看護学方法論Ⅲ <p>対象者の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的・霊的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助が出来るようにすすめます。カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。</p>
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
成人・老年看護学実習	3	3	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00～16:00 (8時間)		15日間	120時間

◇講義概要

慢性の経過をたどる疾病・生活のコントロールを行いながら生活を送る対象及び家族が必要なセルフケア能力を身に付け、QOLを維持できるような援助を学ぶ。成長発達の特徴や健康障害によって影響を受ける生活のQOLに焦点をあてた看護について学ぶ。慢性期の看護を実施する上で有用な概念となる「病みの軌跡」「セルフケア」「自己効力」などを基盤に、慢性期疾患を持つ対象の看護の実際を学ぶ。

◇到達目標

1. 慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的・霊的側面の相互に及ぼす影響について理解し、特徴をとらえることができる
2. 慢性期にある対象の特徴や個別性をふまえ、問題点を明確にすることができる
3. 慢性期にある対象の特徴や個別性をふまえた看護計画・実施・評価ができる
4. 慢性期にある対象がセルフケアおよびセルフマネジメントできるように指導や援助ができる
5. 慢性期にある対象のQOLについて考え、看護学生として倫理に基づいた責任ある行動ができる
6. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への効果的な社会資源を考えることができる
7. 保健医療福祉チームの役割と連携の必要性を学び、チームの一員としての役割を理解することができる

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用い実習の説明 実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題の技術練習を行う
2日目	病棟オリエンテーション 情報収集 (VS測定を含む) 情報の分類・整理	病棟実習 カンファレンス：個人目標の発表・本日の気づきや学びの共有
3日目	援助（見学・一部介助） 情報収集・情報の分類（アセスメント用紙記入）	病棟実習 カンファレンス
4日目	情報収集・情報の分類（アセスメント用紙記入） 看護援助実施・評価	病棟実習 カンファレンス
5日目	看護援助実施・評価	病棟実習 カンファレンス
6日目	【学内実習】 看護問題の明確化 看護計画を立案	・情報用紙、アセスメント用紙をもとに受け持ち患者の状況を理解とともに、基本的欲求の未充足と考えられる構成要素を優先的にアセスメントし、指導を受ける。 【看護実習室】 ・受け持ち患者の看護援助技術の演習（scenario使用）
7日目	看護計画発表	病棟実習

令和6年度 看護学科 シラバス

	指導計画の発表	カンファレンス：看護計画の発表
8日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 カンファレンス
9日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 カンファレンス
10日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 カンファレンス：中間カンファレンス
11日目	【学内実習】 計画の実施・評価（追加・修正） 援助の振り返り ケースのまとめ発表会計画書作成	【学内実習室】（演習） 課題に沿って技術演習を行う 個人ワーク・グループワーク
12日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 カンファレンス
13日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 カンファレンス
14日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	病棟実習 最終カンファレンス 実習の学び・今後の課題
15日目	【学内実習】 ケースの学びまとめ 事例による模擬演習 （退院支援を考える）	「成長発達の特徴や健康障害によって影響を受ける生活のQOLに焦点をあてた看護について考える」 ・個人ワーク グループワーク

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	<p>成人・老年看護学実習の受講には、実習前に以下の科目をすべて修得している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学概論 ・成人看護学方法論Ⅰ-1 ・成人看護学方法論Ⅰ-2 ・成人看護学方法論Ⅱ-1 ・成人看護学方法論Ⅱ-2 ・成人看護学方法論Ⅲ ・老年看護学概論 ・老年看護学方法論Ⅰ-1 ・老年看護学方法論Ⅰ-2 ・老年看護学方法論Ⅱ <p>対象者の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、成長発達の特徴をふまえ、身体的・心理的・社会的・霊的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助が出来るようにすすめます。カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。</p>
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学実習	3	3	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00～16:00 (8時間)		15日間	120時間

◇講義概要

老年期にある対象者が生活する各施設での実習を行い、加齢による身体的・精神的・社会的変化と健康レベルと生活機能障害の関連性をふまえ、QOLの維持・向上につなげるための必要な基本的知識、技術、態度を養います。また、施設等での看護師の役割・他職種の役割・チームケアについて理解を深めます。

◇到達目標

1. 加齢による身体的・精神的・社会的変化が個人によって異なることが理解できる。
2. 老年期にある人の健康レベルと生活機能障害に併せた社会資源の活用について理解できる。
3. 老年期にある人の健康レベルと生活機能障害をふまえ、QOLの維持・向上につながる援助を身につけることができる。
4. 施設等での看護師の役割・他職種の役割・チームケアについて理解ができる。
5. 施設の概要と関連法規の関係を理解することができる。

◇授業計画

回数	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 ・実習オリエンテーション ・介護老人保健施設の役割について考える	・実習オリエンテーションを受ける ・介護老人保健施設の役割をまとめる ・介護老人保健施設での看護師の役割を考える ・介護老人保健施設での援助について考える
2日目	介護老人保健施設 オリエンテーション	介護老人保健施設実習
3日目	受け持ち対象者の紹介・情報収集 バイタルサイン測定・コミュニケーション	
4日目	入浴介助他	
5日目	援助の一部介助・見学 カンファレンス	
6日目	【学内実習】 ・実習オリエンテーション ・介護老人福祉施設での生活について考える	
7日目	介護老人福祉施設 オリエンテーション	介護老人福祉施設実習
8日目	受け持ち対象者の紹介・情報収集 バイタルサイン測定・コミュニケーション	
9日目	援助の一部介助・見学 カンファレンス	
10日目		
11日目	【学内実習】 ・実習オリエンテーション	・実習オリエンテーションを受ける ・社会福祉協議会の役割と機能についてまとめ

令和6年度 看護学科 シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会 ・認知症対応型グループホーム 	<p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型グループホームの役割と機能についてまとめる
12日目	<p>社会福祉協議会 オリエンテーション 複数の対象からの情報収集 (身体的・精神的・社会的特徴 1日の生活リズム・生活習慣 成人期の過ごし方 北福祉センターを利用している対象の身体的・精神的・社会的特徴、成人期の過ごし方と健康問題の関連性等の特徴についてまとめる)</p>	北福祉センター実習
13日目	<p>認知症対応型グループホーム オリエンテーション 受け持ち対象者の紹介・情報収集 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助・見学 カンファレンス</p>	認知症対応型グループホーム実習
14日目		
15日目	<p>【学内実習】 ・地域で暮らす高齢者の生活を考える</p>	<p>学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設での学びをもとに多様な高齢者の生活を考え、それぞれに必要な援助を考える。 ・学びの発表会

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	<p>老年看護学実習の受講には、実習前に以下の科目をすべて修得している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論 ・老年看護学方法論Ⅰ-1 ・老年看護学方法論Ⅰ-2 ・老年看護学方法論Ⅱ <p>それぞれの施設の役割、機能を理解して実習に臨むための事前学習が必要です。</p>
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学実習	3	2	前期	必修
	実習時間		実習日数	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

小児看護学実習Ⅰ（保育園）では、健康な乳幼児の成長・発達を理解し、健全な発達に必要な援助を学ぶ。小児看護学実習Ⅱ（病院実習）では、対象である小児とその家族を理解し、子どもの成長発達に及ぼす影響を最小限にした生活の援助、子どもの自立への援助について学ぶ。

◇到達目標

1. 小児各期の成長・発達段階の特徴を理解し、健全な発達に必要な援助が理解できる
2. 小児各期の成長・発達段階に応じた保育・教育をふまえた看護の意図的な関わりを理解することができる
3. 小児各期の発達段階に応じた基本的な生活習慣の獲得の具体的援助が理解できる
4. 子どもの個々の健康レベルに適した看護を実践、評価することができる
5. 子どもを取り巻く環境とその影響を認識し、小児看護の役割が理解できる
6. 自己の小児看護観を明らかにすることができる

◇授業計画

	内容	実習方法
こども園・保育園実習		
1日目	見学実習	カンファレンス
2日目	見学実習	カンファレンス
3日目	見学実習	カンファレンス
4日目	見学実習	最終カンファレンス 実習記録提出
理解を深める 学習① (実習時間外)	【学内実習】 学びのまとめ	「小児の発達段階に応じた援助」を考える 個人ワーク・グループワーク
児童発達支援施設		
5日目	施設オリエンテーション 見学実習	カンファレンス
理解を深める 学習② (実習時間外)	【学内実習】 学びのまとめ	学内 「児童発達支援施設の役割」について考える 個人ワーク・グループワーク
病棟実習		
6日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患児情報提供と事前学習	実習要項を用い実習の説明 実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題の 技術練習を行う
7日目	病棟オリエンテーション 情報収集 (VS測定を含む) 情報の整理	病棟実習 カンファレンス：個人目標の発表・本日の気づきや 学びの共有

令和6年度 看護学科 シラバス

8日目	援助（見学・一部介助） 情報収集	病棟実習 カンファレンス
9日目	援助（見学・一部介助）	病棟実習 カンファレンス
10日目	援助（見学・一部介助）	病棟実習 最終カンファレンス 実習の学び・今後の課題
理解を深める 学習② (実習時間外)	【学内実習】 実習のまとめ	学内 「小児看護観」をまとめる 個人ワーク・グループワーク

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	小児看護学実習の受講には、実習前に以下の科目をすべて修得している必要があります。 ・小児看護学概論 ・小児看護学方法論 I-1 ・小児看護学方法論 I-2 ・小児看護学方法論 II
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
母性看護学実習	3	2	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00～16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

看護の対象である母性とのかかわりを通して、母性看護に必要な知識・技術を習得し、それらを統合して応用できる基礎的な能力を身につける。また、リプロダクティブ・ヘルスの視点から、女性のライフサイクルを学ぶ。

◇到達目標

1. 妊娠経過を理解し、妊娠期における母子の健康問題を抽出しアセスメントできる。
2. 分娩経過中の母子の適応状態を確認し、分娩時の母子とその家族に対する援助について理解することができる。
3. 産褥経過を理解し、退行性・進行性変化を促進するために褥婦に対して看護過程を展開して実践できる。
4. 新生児の生理的变化を理解し、新生児の胎外生活への適応を促進するために新生児に対して看護過程を展開して実践できる。
5. ウェルネスな視点から周産期にある母子の健康レベルを明確にし、対象自身のセルフケアや母子関係確立のための援助について理解する。
6. リプロダクティブ・ヘルスの視点から、産婦人科外来において、多様なライフサイクルにある女性特有な疾患について理解すると共に、グループごとのカンファレンスにより現在将来において必要となる性と生殖の健康支援について考えることができる。
7. 母性看護学実習を通して生命や自己の母性や父性について考え、人間の尊厳、プライバシーや自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。

◇授業計画

	内容	実習方法
産婦人科外来実習		
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 個人目標設定 3. 知識確認テスト・技術確認 4. 行動計画の作成	・実習要項を用い実習の説明 ・事前学習の確認 ・実習室にて指示された課題の技術練習を行う
2日目	婦人科外来 見学実習	・婦人科外来での医師の診察や看護師のケアを見学する ・婦人科手術入院予定の患者への保健指導を見学する
3日目	産科外来 見学実習	・外来診察を見学する ・妊婦計測やNSTの見学及び一部実施 ・保健指導を見学する

令和6年度 看護学科 シラバス

産科病棟実習		
4日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 知識確認テスト・技術確認 4. 事前学習	・実習要項を用い実習の説明 ・事前学習の確認 【看護実習室】 ・実習室にて指示された課題の技術練習を行う
5日目	病棟オリエンテーション 情報収集 情報の分類・整理 バイタルサイン測定・観察 援助（見学・一部実施） 看護計画を立案 指導の見学	【病棟実習】 ・カンファレンス
6日目		【病棟実習】 ・カンファレンス
7日目		【病棟実習】 ・カンファレンス
8日目		【病棟実習】 ・カンファレンス
9日目		【病棟実習】 ・カンファレンス
10日目		【病棟実習】 ・最終カンファレンス
評価方法	評価表参照	
留意事項	母性看護学実習の受講には、実習前に以下の科目を修得している必要がある。 ・母性看護学概論 ・母性看護学方法論Ⅰ-1 ・母性看護学方法論Ⅰ-2 ・母性看護学方法論Ⅱ	

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
精神看護学実習	3	2	前期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		10日間	80時間

◇講義概要

精神看護学実習では、9日間の病棟実習と・1日間の就労支援施設での実習を行います。精神疾患を持つ人々との関わりをとおしてコミュニケーションの大切さや難しさを学びます。また、対象の理解を深め、精神の健康回復への援助や社会復帰に向けた援助に必要な知識・技術・態度を学びます。

◇到達目標

1. 精神に障害をもつ患者との関わりを通して患者への理解を深める。
2. 精神に障害をもつ患者との関係成立に関心を持って関わるができる。
3. 精神に障害をもつ患者との関わりを通して自己の内面の変化に気づき自己洞察できる。
4. 受け持ち患者の看護過程が展開できる。
5. 精神に障害をもつ患者の治療環境について理解できる。
6. 精神に障害をもちながら地域で生活している人への理解を深め、社会支援の実際について理解できる。

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用い実習の説明 実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題の技術練習を行う
2日目	病棟オリエンテーション 情報収集 情報の分類・整理	【病棟実習】 ・カンファレンス
3日目	援助（見学・一部介助） 情報収集・情報の分類（アセスメント用紙記入） プロセスレコードの記録	【病棟実習】 ・カンファレンス (1週目に1回提出)
4日目	情報収集・情報の分類（アセスメント用紙記入） 看護援助実施・評価	【病棟実習】 ・カンファレンス
5日目	【学内実習】 看護問題の明確化 看護計画を立案	・情報用紙、アセスメント用紙をもとに受け持ち患者の状況を理解とともに、基本的欲求の未充足と考えられる構成要素を優先的にアセスメントし、指導を受ける。 【看護実習室】 ・受け持ち患者の看護援助技術の演習 (scenario使用)
6日目	看護計画発表 指導計画の発表	【病棟実習】 ・カンファレンス：看護計画の発表
7日目	計画の実施・評価（追加・修正） 経過記録の記載	【病棟実習】 ・カンファレンス
8日目	計画の実施・評価（追加・修正）	【病棟実習】

令和6年度 看護学科 シラバス

	経過記録の記載 プロセスレコードの記録	・カンファレンス (2週目に2回目)
9日目	計画の実施・評価(追加・修正) 経過記録の記載 実習のまとめを記載	【病棟実習】 ・最終カンファレンス
学びを深める 時間 (実習時間外)	【学内実習】 自己目標の達成度、課題を記載 自己評価(最終)	・病棟実習の振り返り
10日目	【就労支援事業所】 オリエンテーション 作業・レクリエーションに参加	就労支援事業所見学

評価方法	評価表参照
------	-------

留意事項	精神看護学実習を受講するには、実習前に以下の全て修得している必要があります。 ・精神看護学概論 ・精神看護学方法論 I-1 ・精神看護学方法論 I-2 ・精神看護学方法論 II
------	--

令和6年度 看護学科 シラバス

科目名	学年	単位数	開講期	種別
看護の統合と実践実習	3	3	後期	必修
	実習時間		実習期間	総時間数
	9:00~16:00 (8時間)		15日間	120時間

◇講義概要

病院機能全体における看護職の果たす役割を理解するとともに、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を総合的に体験し、看護実践に必要な能力を高めます。

◇到達目標

1. 病院・病棟の看護管理の実際を知る。
 - ①病院・病棟の理念、方針、業務の流れなどを理解し、看護を円滑に実践するための看護管理者の役割を知る。
 - ②病棟における運営やリーダー業務の実際を理解し、他職種への連絡調整の必要性がわかる。
2. 外来看護における看護師の役割を知る。
 - ①外来業務の実際を知ることができる。
 - ②病棟や他部門との連携の必要性を知ることができる。
 - ③継続看護の実際を知ることができる。
3. 夜間における入院患者の療養生活を知り、看護師の役割について考えることができる。
 - ①夜間における患者の療養生活や安全対策について知ることができる。
 - ②夜間における看護師の業務について知ることができる。
 - ③夜間における患者の状態（身体面・精神面）と看護師の役割について考えることができる。
4. 複数の受け持ち患者の状態を知り、看護の優先順位を考えることができる。
 - ①複数受け持ち患者（2名）の看護目標からその日の行動目標を考えることができる。
 - ②各患者の状態を知り、援助の優先順位と時間管理を考えて1日の計画を立てることができる。
 - ③各患者の状況に応じて、看護師とともに看護を実践できる。
5. 看護チームの一員としての役割について理解することができる。
 - ①看護チームの役割分担および協力体制について考えることができる。
 - ②看護チームの一員として、責任ある行動について考えることができる。
 - ③保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を考え、他部門への連絡調整の必要性がわかる。
6. 自己の看護観を深め、職業人としての課題を明確にできる。
 - ①実習を通して、自己の看護観を深め、職業人としての自覚と責任について考えることができる。
 - ②専門職を目指す社会人としての心構えができる。

◇授業計画

	内容	実習方法
1日目	【学内実習】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 事前学習	・実習要項を用い実習の説明 ・実習室にて1Gが1ベッド使用し、指示された課題の技術練習を行う

令和6年度 看護学科 シラバス

2日目	【病院実習】 1. 管理実習（師長）：見学実習 1日 2. 管理実習（チームリーダー）：見学実習 1日 3. 外来看護実習：見学と実施 1日 4. 複数受け持ち患者実習：看護師とともに実施 6日 5. 夜間実習：見学実習 1回 6. 合同カンファレンス 1日	・病院実習 ・スケジュール表にそって臨地で実習を行う
3日目		
4日目		
5日目		
6日目		
7日目		
8日目		
9日目		
10日目		
11日目		
12日目		
13日目	【学内実習】 レポート提出・発表	（多職種連携カンファレンスを見学して）改めて看護の視点、役割についてグループディスカッションを行う。
14日目	【学内実習】 突発事象への対応	・グループワーク（管理課題） ・学内（看護実習室） ・発表会
15日目	【学内実習】 多職種連携	模擬多職種連携カンファレンス体験 他学科（理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・介護福祉学科）の学生を交えて実施する。
評価方法	評価表参照	
留意事項	3年間で習得した基礎知識・技術・態度を踏まえて臨んでください。 看護の統合と実践実習は卒業予定年度に履修することとします。	